

平成27年度  
全国学力・学習状況調査

～留萌市における結果の概要～

I	調査の概要	1 P
II	教科調査結果の概要	2 P
III	質問紙調査結果の概要	16 P
IV	おわりに	27 P

平成27年12月

留萌市教育委員会

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

## 3 調査の内容

### (1) 児童生徒に対する調査

#### ① 教科に関する調査

ア 国語A、算数・数学A～主として「知識」に関する問題

○身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

○実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

イ 国語B、算数・数学B～主として「活用」に関する問題

○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

○様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

ウ 理科～平成24年度以来3年ぶりに実施。また、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題。

#### ② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

### (2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 4 調査実施日

平成27年4月21日(火)

## 5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	20,003 校	1,061,301 人	9,691 校	1,016,737 人
北海道(公立)	1,076 校	42,068 人	606 校	40,966 人
留 萌 市	5 校	153 人	3 校	159 人

## 6 調査結果に関する留意事項

(1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

(2) 本調査の結果においては、平均正答率、平均正答数等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

## Ⅱ 教科調査結果の概要

### 1 平均正答率から見る学力の状況の概要

#### (1) 平成27年度調査各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

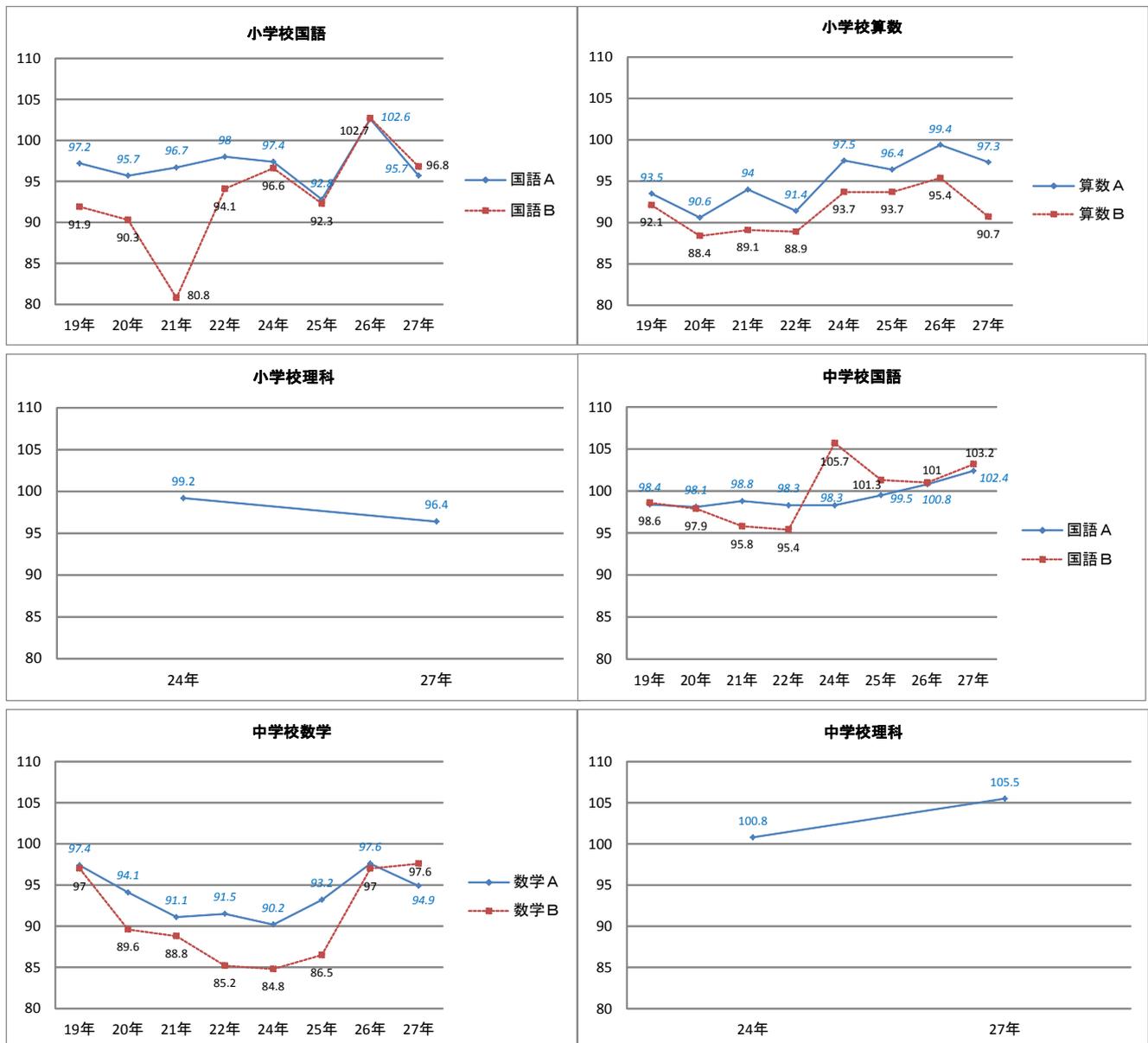
	小 学 校					中 学 校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
留 萌 市	67.0	63.3	73.2	40.8	58.6	77.6	67.9	61.1	40.6	55.9
北 海 道	68.1	63.0	72.3	42.5	59.3	75.8	65.7	63.0	39.7	53.3
全 国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
北海道との差	-1.1	+0.3	+0.9	-1.7	-0.7	+1.8	+2.2	-1.9	+0.9	+2.6
全国との差	-3.0	-2.1	-2.0	-4.2	-2.2	+1.8	+2.1	-3.3	-1.0	+2.9

#### (2) 全国の平均正答率を100としたときの9年間の推移

※調査問題が毎年異なり、平均正答率を単純比較できないため、全国の平均正答率を100とする。

(市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

※H23は、道独自で調査を行ったことから、国との比較ができないため非掲載とする。



- ・ 全国の平均正答率を上回ったのは中学校国語A，中学校国語B，中学校理科である。また、小学校国語B，小学校算数A，中学校数学Bは北海道の平均正答率を上回っている。
- ・ 9年間の推移から，小学校では平成24年度以降，どの教科においてもおおむね全国の平均正答率との差は縮まる傾向にはあるが，ただ今年は算数Bは差が広がった。また，中学校では国語A，Bともにここ数年ほぼ全国の平均正答率と変わらない。一方，数学A，Bについては平成25年度より上昇傾向にはあるが，依然として全国平均正答率より低くなっている。

## 2 小学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.4問／14問	67.0%
北海道	9.5問／14問	68.1%
全国	9.8問／14問	70.0%

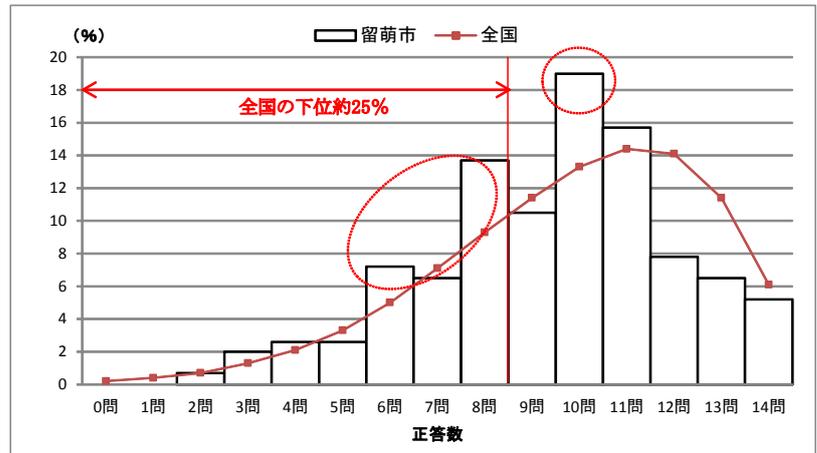
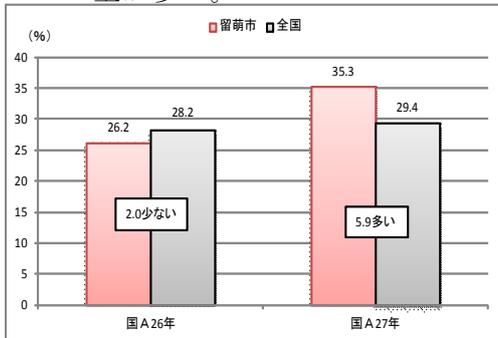
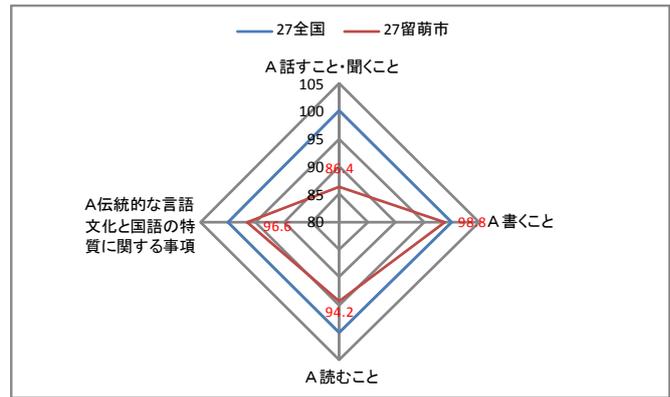
### (1) 「領域別正答率」の傾向

- ・ 「話すこと・聞くこと」の領域は，全国と比べ低い傾向である。
- ・ 「読むこと」の領域は，全国と比べやや低い傾向である。

### (2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率の範囲に含まれる割合」の傾向

- ・ 14問中，正解した児童数が最も多かったのは，全国が11問に対し，10問である。
- ・ 下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ9.1ポイント多く，特に6~8問正解した児童が多い。

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



### (3) 設問別の正答率の概要

① 全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H26) 9/15問	(H27) 4/14問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	漢字を読む (全員がすぐに承知した)	95.4%	92.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	漢字を読む (自分の信念をつらぬく)	98.0%	96.0%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文の中における主語を捉える	文の主語として適切なものを選択する	41.2%	53.1%
読むこと	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する	49.0%	59.5%

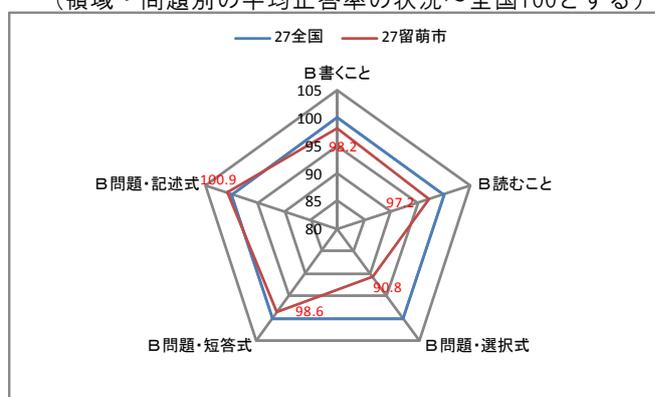
国語Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 主語と述語は、文の骨格をなし、明確な文を書く上で最も基礎であり、その照応関係が大切であることについて、文や文章を理解したり表現したりするときに強く意識できるよう指導することが重要である。
- 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読み、表現の仕方を捉えさせる指導が求められる。

3 小学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	5.7問／9問	63.3%
北海道	5.7問／9問	63.0%
全国	5.9問／9問	65.4%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

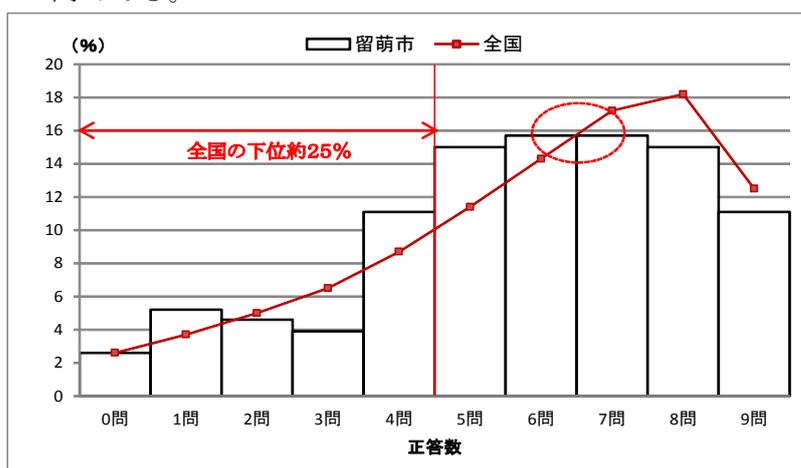
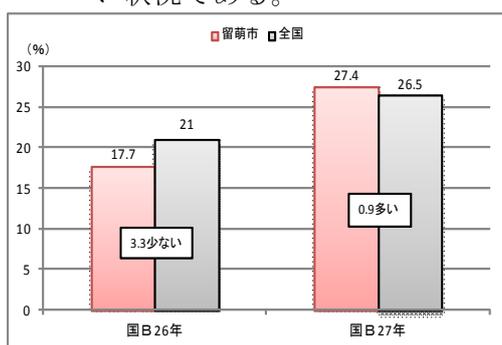


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・ 選択式の問題については、全国と比べ低い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率の範囲に含まれる割合」の傾向

- ・ 9問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が8問に対し、6、7問である。
- ・ 下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ9.7ポイント多い状況である。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H26) 8／10問	(H27) 3／9問
----------------	-------------	------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
読むこと 書くこと	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く (記述式)	46.4%	41.6%

読むこと 書くこと	目的に応じ，文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える	【文章】の要旨をまとめて書く (記述式)	81.7%	78.4%
--------------	-----------------------------	-------------------------	-------	-------

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
読むこと	登場人物の行動を基にして，場面の移り変わりを捉える	ある場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する	50.3%	60.4%
読むこと 書くこと	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する	声に出して読むときの工夫とその理由を書く (記述式)	59.5%	66.6%

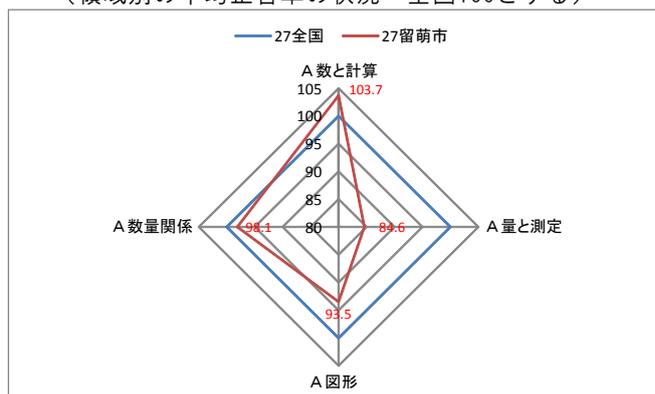
国語Bにおいて，留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 登場人物の行動や会話，情景を基にして場面の移り変わりを捉えることが大切であり，物語の展開に即して，「いつ」，「どこで」，「だれが」，「何をして」，「どう思ったか」などを中心に物語のあらすじをまとめることを指導することが重要である。
- 繰り返し音読することで，場面の移り変わり，登場人物の行動や気持ちの変化を捉えることが重要である。

#### 4 小学校算数A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	11.7問／16問	73.2%
北海道	11.6問／16問	72.3%
全国	12.0問／16問	75.2%

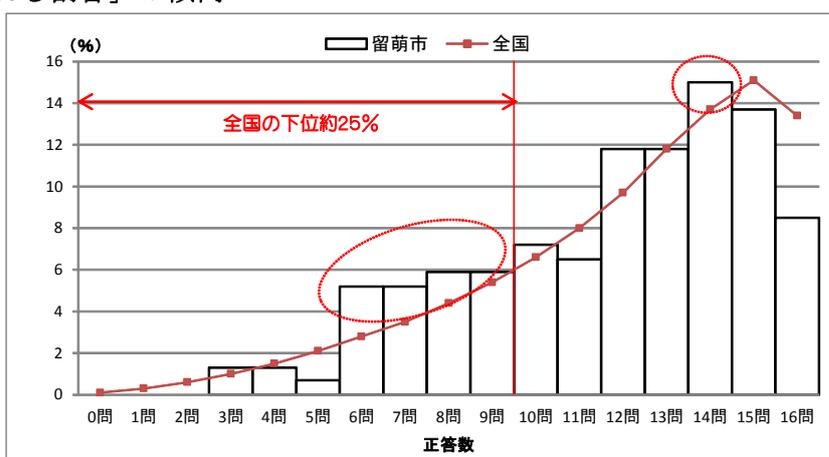
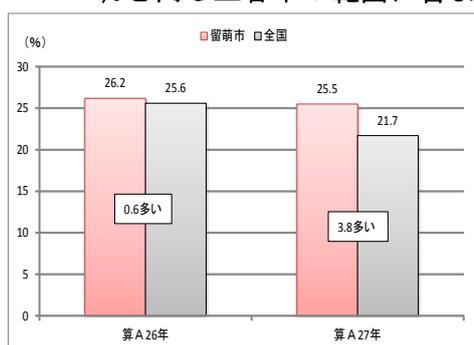
(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



##### (1) 「領域別正答率」の傾向

- ・「数と計算」の領域は，全国と比べやや高い傾向にある。
- ・「図形」の領域は，全国と比べやや低く，「量と測定」の領域はさらに低い傾向にある。

##### (2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率の範囲に含まれる割合」の傾向



- ・16問中，正解した児童数が最も多かったのは，全国が15問に対し，14問である。
- ・下位層に含まれる児童の割合が前年度よりわずかに減少したが，全国との差は広がり，特に6～9問正解した児童が全国と比べ，多くなっている。

##### (3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H26) 8／17問	(H27) 7／16問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる	6.79 - 0.8を計算する	81.7%	69.5%
数と計算	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	8.9 - 0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	81.0%	71.0%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
量と測定	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	分度器の目盛りを読み、180°より大きい角の大きさを求める	43.1%	58.0%
量と測定	180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる	90°、180°、270°、360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	68.0%	81.3%
図形	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解している	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ	58.8%	67.6%

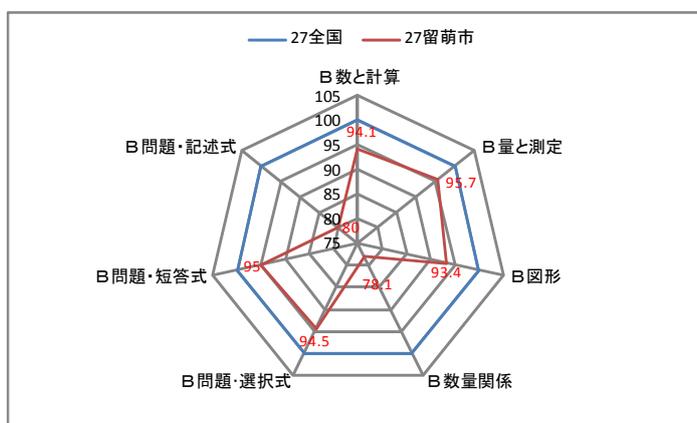
算数Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 角の大きさの見当を付ける活動や、分度器を用いて測定する活動、見当付けの結果と測定の結果について振り返って確かめる活動が大切である。角の大きさの見当を付ける際には、回転の大きさが角の大きさであることを丁寧に確認しながら活動を進めていくことが大切である。また、1直角、2直角、3直角を基準にして角の大きさを確認することも有効である。
- 立方体や直方体などの立体図形の展開図を観察して、面と面どうしのつながりや位置関係について理解を深めることが大切である。立体図形と見取図の対応や、立体図形と展開図の対応だけでなく、見取図と展開図どうしの対応について考えることも大切である。

## 5 小学校算数B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	5.3問/13問	40.8%
北海道	5.5問/13問	42.5%
全国	5.9問/13問	45.0%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

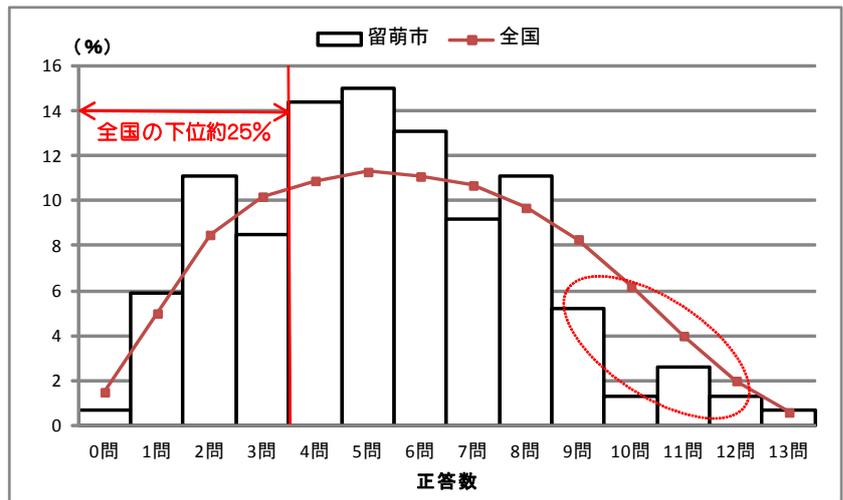
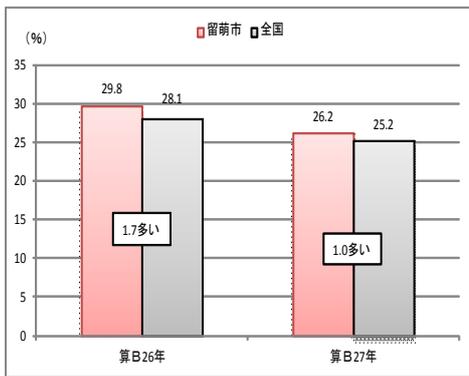


### (1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・「図形」の領域は、全国と比べやや低く、「数量関係」の領域は低い傾向である。
- ・記述式の問題については、全国と比べ低い傾向である。

### (2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率に含まれる割合」の傾向

- ・13問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国と同様に5問である。
- ・全国と比べて9問以上正解した上位層の割合に開きが見られる。
- ・下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ3.6ポイント少なく、また、今年度は全国と比べてもわずか1.0ポイント多い状況まで改善されつつある。



### (3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H26) 4/13問	(H27) 1/13問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	60.1%	52.6%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数量関係	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く (記述式)	34.6%	51.0%
数量関係	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	4.6%	13.1%
図形	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、⑦の角が30°になる理由を記述できる	合同な二つの三角形を巻き尺でつুক্তときに、⑦の角が30°になるわけを書く (記述式)	41.8%	49.1%

算数Bにおいて、留萌市の児童への指導にあたっては

- 示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉え、基準量を正しく求めることができるようにすることが大切である。
- 考えが誤りやすい場面を取り上げた際に、自分の考えを振り返るように促すなど、考えを批判的に考察する機会を授業で設けることも必要である。
- 話し手の児童の説明が筋道の立った説明になっているかどうかを判断し、必要に応じて話し手の児童に言い直すように促したり、聞き手の児童の筋道の立った説明になっているかを意識して話を聞くように促したりすることが大切である。

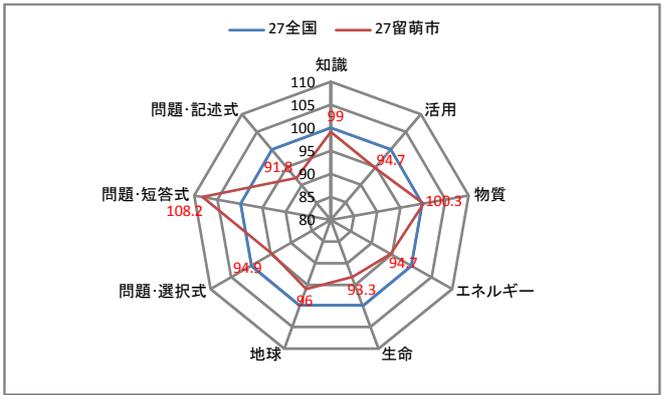
## 6 小学校理科

	平均正答数	平均正答率
留萌市	14.1問/24問	58.6%
北海道	14.2問/24問	59.3%
全国	14.3問/24問	60.8%

(1) 「領域・問題別別正答率」の傾向

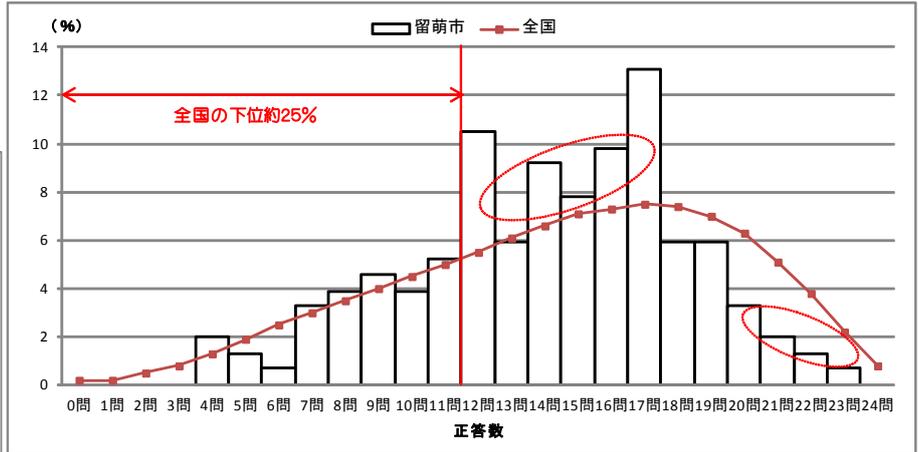
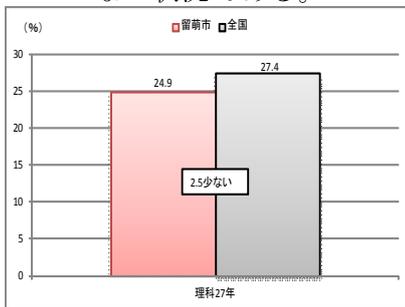
- ・「生命」と「エネルギー」の領域は、全国と比べやや低い傾向にある。
- ・記述式の問題については、全国と比べやや低い傾向にある。

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)



(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率の範囲に含まれる割合」の傾向

- ・24問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国と同様に17問である。
- ・全国と比べ、20問以上正解した上位層の割合は少ないが、逆に中位層の割合は多くなっている。
- ・下位層に含まれる児童の割合は全国と比べ少ない状況である。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H27) 4 / 24問
----------------	---------------

枠組み・領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
「知識」 物質	メスシリンダーの名称を理解している	示された器具(メスシリンダー)の名称を書く	79.1%	70.7%
「知識」 地球	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	66.7%	58.5%

②全国以下の平均正答率の設問から

枠組み・領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
「活用」 エネルギー	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できる	振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ	51.6%	61.2%
「知識」 生命	顕微鏡の適切な操作方を身に付けている	顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ	29.4%	37.9%
「知識」 地球	月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している	夕方に見られる月の形と場所を選ぶ	47.7%	56.1%

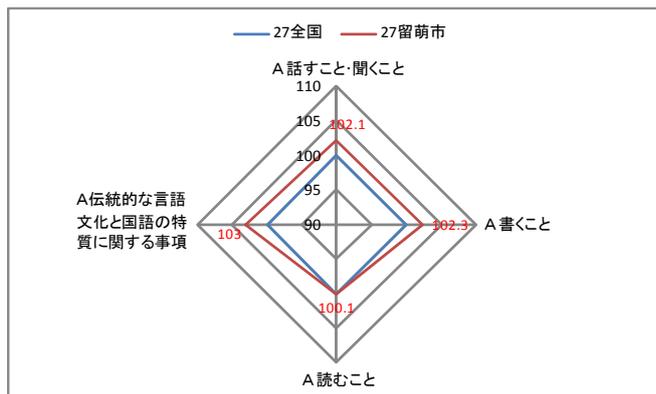
理科において、留萌市の児童へ指導の改善にあたっては

- 学習を通して獲得した知識を身の回りの事物・現象に当てはめて考える思考の過程を言葉で整理したり、振り子時計のおもりの位置や軸が学習で用いた実験用振り子のどの部分に当たるのかを確認したりする学習活動が大切である。
- 学習場面や日常生活など様々な機会を通して顕微鏡を使って、必要感をもって観察できるようにすることが大切である。
- 時間ごとに月が見える方向や高さ、見える形を観察し、月の動きと時間の経過とを関係付けて考えるようにすることが大切である。

## 7 中学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	25.6問／33問	77.6%
北海道	25.0問／33問	75.8%
全国	25.0問／33問	75.8%

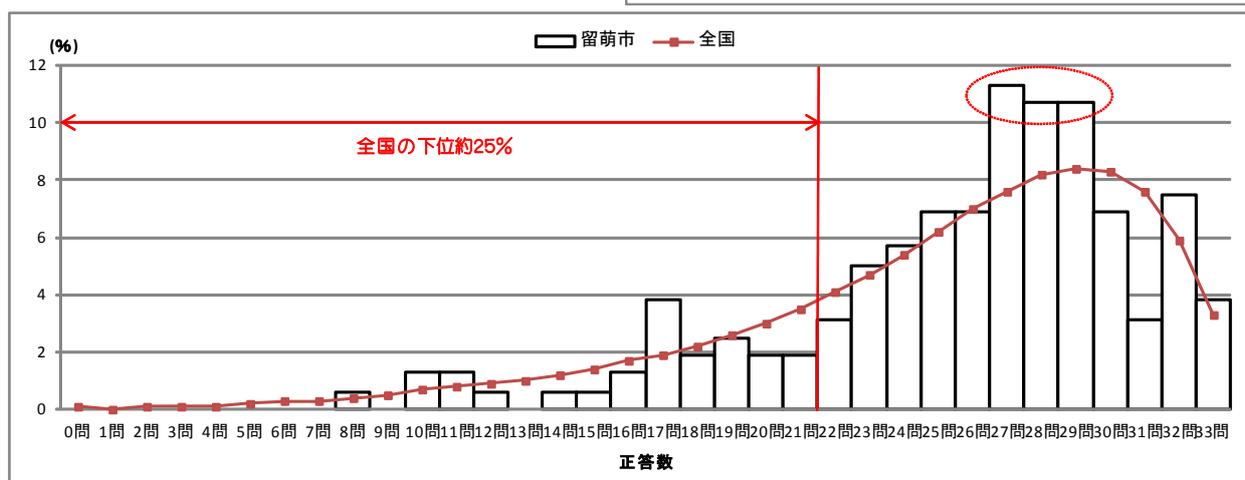
(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



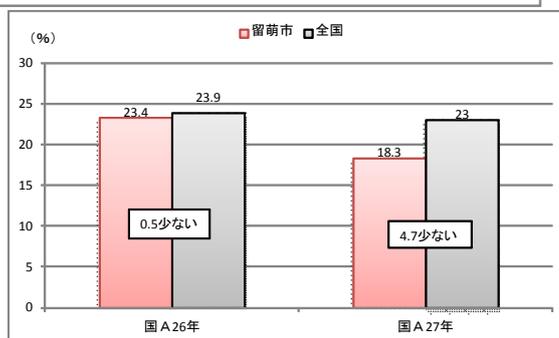
### (1) 「領域別正答率」の傾向

- ・すべての領域は、全国と比べほぼ同様（上位）の傾向である。

### (2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率の範囲に含まれている割合」の傾向



- ・33問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が29問に対し、27問である。
- ・全国と比べ、27～29問正解した割合が多くなっている。
- ・下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ5.1ポイント少なく、また、今年度も全国と比べても少なくなっている。



### (3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H26) 16/32問	(H27) 22/33問
----------------	--------------	--------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文脈に即して漢字を正しく書く	漢字を書く（地図のシユクシヤクを調べる）	86.8%	72.1%

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	適切な語句を選択する（たなびく雲の間から、春の光がもれている）	58.5%	49.0%
話すこと・聞くこと	聞き手を意識し、わかりやすい語句を選択して話す	「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す	74.2%	65.0%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文脈に即して漢字を正しく書く	漢字を書く（ <u>ア</u> まったお金を貯金する）	61.0%	70.9%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	適切な語句を選択する（彼女は、学級の <u>縁</u> の下の力持ちと言える存在だ）	62.9%	70.8%

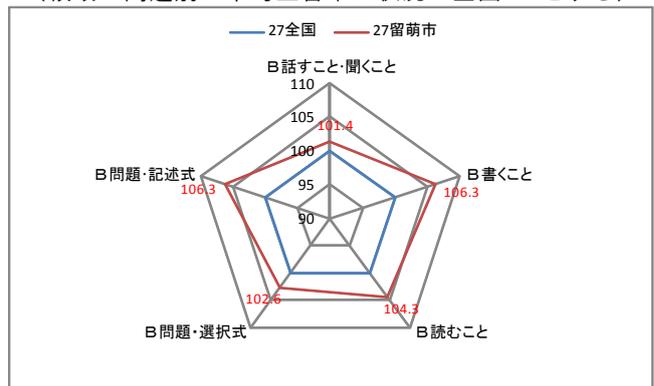
国語Aにおいて、留萌市の生徒への指導にあたっては

- 語句の意味について理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、文脈に即して意味を捉えるように指導することが大切である。特に、日常生活で使うことの少ない語句について指導をする際には、実際に使われている場面を取り上げてその意味を確認し、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする学習活動が有効である。

## 8 中学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.1問／9問	67.9%
北海道	5.9問／9問	65.7%
全国	5.9問／9問	65.8%

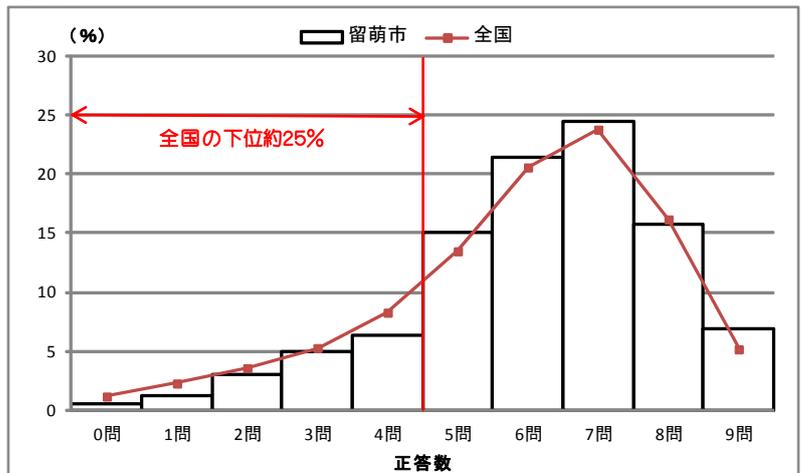
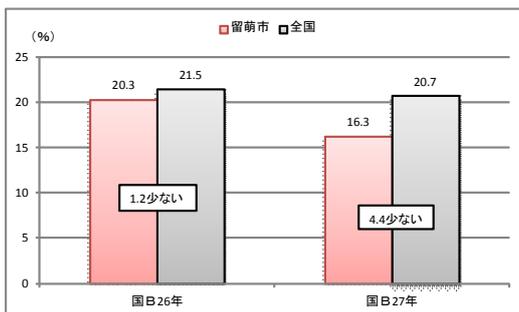
（領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする）



### (1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・すべての領域は、全国と比べほぼ同様（上位）の傾向である。
- ・記述式の問題については、全国と比べほぼ同様（上位）の傾向である。

### (2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率に含まれる割合」の傾向



- ・9問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国と同様に7問である。
- ・分布状況については、全国とほぼ同様の傾向である。
- ・下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ4ポイント少なく、また、今年度も全国と比べても少なくなっている。

### (3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H26) 5 / 9問	(H27) 7 / 9問
----------------	--------------	--------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと	状況に応じて、資料を活用して話す	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	78.0%	73.2%
書くこと 読むこと	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げ自分の考えを書く(記述式)	35.8%	31.1%

②全国以下の平均正答率の設問から  
取り上げるべき設問なし

国語Bにおいて、留萌の生徒への指導にあたっては

- スピーチやプレゼンテーションをする際には、話の要点を明らかにし、聞き手の理解を促すために、資料を効果的に活用する必要がある。その際、どのような資料を、どのタイミングで提示するのか、事前に使用する目的などを確認して考えることが大切である。

## 9 中学校数学A

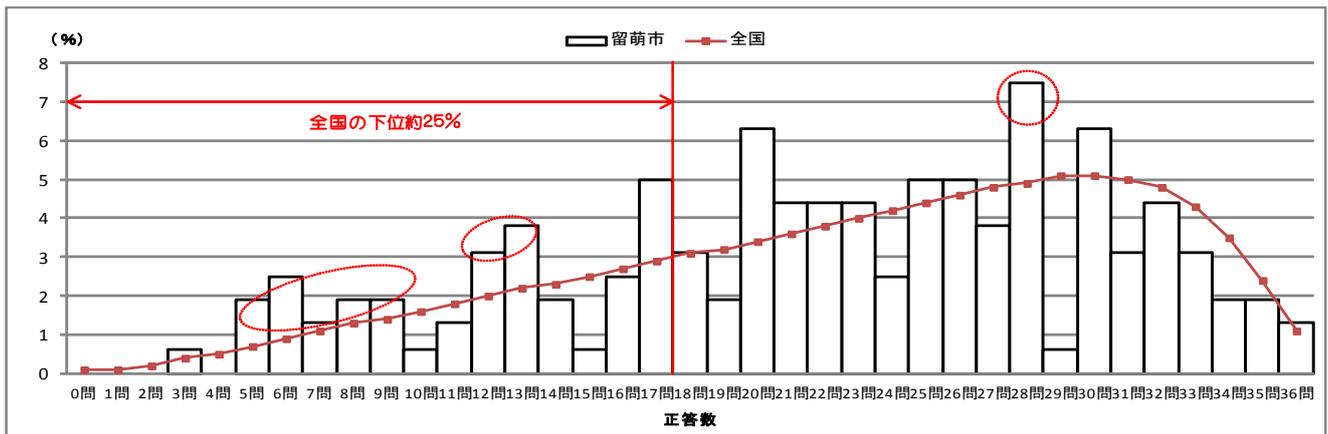
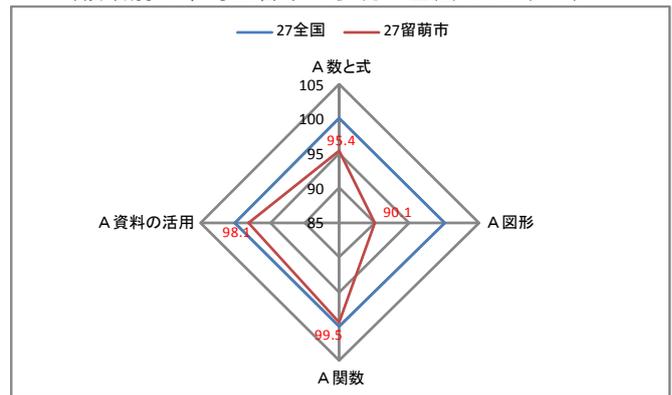
	平均正答数	平均正答率
留萌市	22問 / 36問	61.1%
北海道	22.7問 / 36問	63.0%
全国	23.2問 / 36問	64.4%

### (1) 「領域別正答率」の傾向

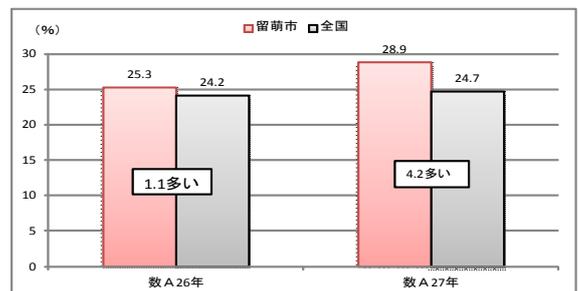
- ・「数と式」の領域は、全国と比べやや低く、また「図形」の領域は低い傾向である。

### (2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率の範囲に含まれる割合」の傾向

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



- ・36問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が29, 30問に対し、28問である。
- ・下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ3.6ポイント多い状況である。特に、5～9問, 12～13問正解の生徒が全国と比べ、多くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H 2 6) 18/36問	(H 2 7) 7/36問
----------------	----------------	---------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
関数	一次関数の表から、 $x$ と $y$ の関係を式で表すことができる	一次関数の表から、 $x$ と $y$ の関係を表した式を選ぶ	75.5%	64.7%
数と式	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	一元一次方程式 $7x = 5x + 4$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	83.6%	79.4%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
図形	平行移動した図形をかくことができる	$\triangle ABC$ を矢印の方向に4cm平行移動した図形をかく	42.8%	54.5%
数と式	一次式の減法の計算ができる	$5x - x$ を計算する	76.1%	85.3%
図形	与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる	与えられた投影図から立体を読み取り、その立体を選ぶ	74.8%	83.8%
図形	ひし形の「対角線は垂直に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることができる	ひし形 $ABCD$ において、 $AC \perp BD$ が表す性質を選ぶ	67.3%	76.1%

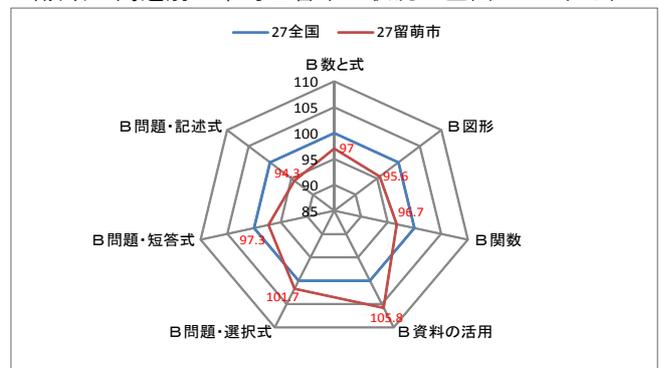
数学Aにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- ある図形がきまりにしたがって移動していることを視覚的に捉えたり、図形の移動の性質を見いだしたりする場面を設定し、移動前と移動後の2つの図形の関係を捉えることができるように指導することが大切である。
- 様々な立体について視点を決めて観察し、立面図と平面図がどのようなになるかを考える場面を設定して、空間図形を投影図に表したり、投影図から空間図形を読み取ったりすることができるように指導することが大切である。
- 図形の構成要素やそれらの関係を記号で表したり、記号で表された図形の構成要素やそれらの関係を読み取ったりできるように指導することが大切である。

10 中学校数学B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.1問/15問	40.6%
北海道	6.0問/15問	39.7%
全国	6.2問/15問	41.6%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

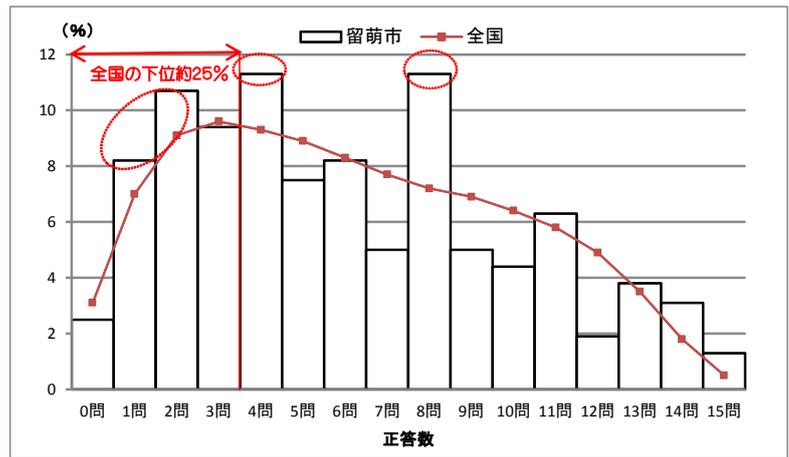
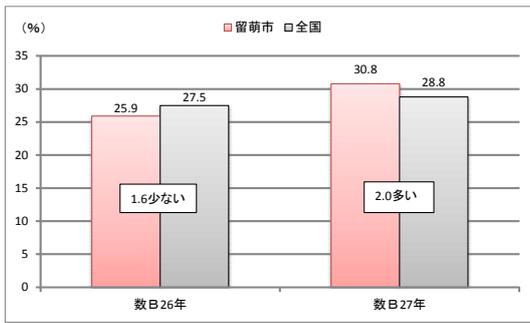


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・すべての領域は、全国と比べほぼ同様の傾向である。
- ・記述式の問題については、全国と比べほぼ同様(下位)の傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率の範囲に含まれる割合」の傾向

- ・15問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が3問に対し、4問及び8問である。
- ・下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ4.9ポイント多い状況である。特に、1～2問正解した生徒が全国と比べ、多くなっている。



### (3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H26) 7 / 15問	(H27) 5 / 15問
----------------	---------------	---------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と式	振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができる	記名のある落とし物を1個1点、ない落とし物を1個2点として集計するとき、表彰する学級の決め方として正しい記述を選ぶ	71.1%	67.3%
関数	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる	投影画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく写し出すことができる投影距離を選ぶ	37.7%	35.1%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と式	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する (記述式)	37.1%	43.1%
関数	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	投影距離と投影画面の高さの関係性を式で表す	23.9%	29.3%
数と式	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	連続する5つの数の和について成り立つ事柄を表現する (記述式)	59.1%	63.8%
図形	発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができる	正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても、 $AE = CF$ となることの証明を完成する (記述式)	45.9%	49.6%

数学Bにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、根拠を明らかにする場面を設定し、事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明できるように指導することが大切である。また、問題の条件を変えて見いだした事柄について、その前提と結論の両方を明確にして表現できるように指導することが大切である。
- 事象を数学的に考察する場合を取り入れ、図や表などで与えられた情報から目的に応じて必要な情報を選択し、的確に処理できるように指導することが大切である。
- 証明を読み、結論を導くために欠かせない条件や性質を捉える場面を設定し、問題の条件を変えて、発展的に考えることができるように指導することが大切である。

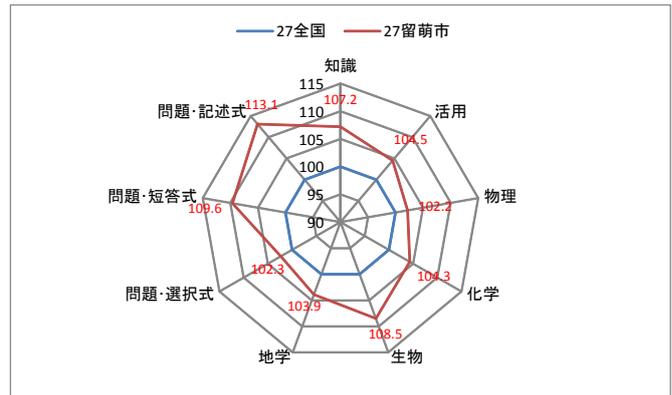
## 11 中学校理科

	平均正答数	平均正答率
留萌市	14問／25問	55.9%
北海道	13.3問／25問	53.3%
全国	13.3問／25問	53.0%

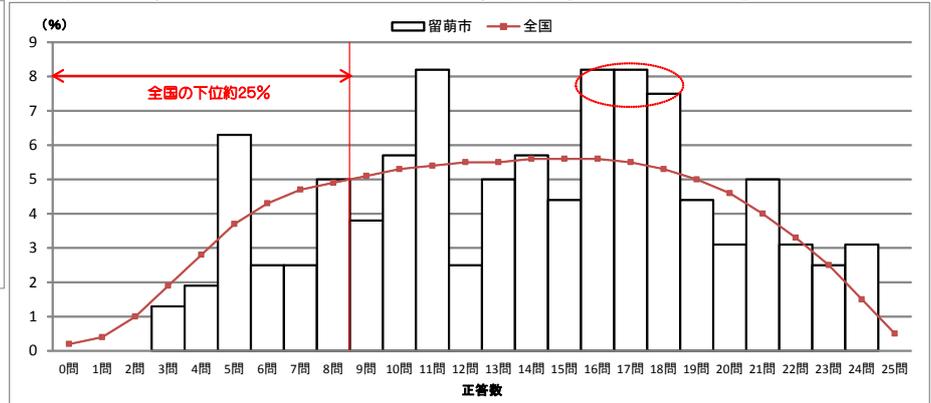
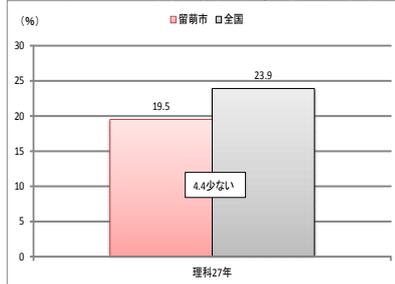
### (1) 「領域・問題別正答率」の傾向

- ・主として「知識」に関する問題については、全国と比べやや高い傾向にある。
- ・すべての領域において、全国以上で特に「生物」では、全国と比べ高い傾向にある。
- ・短答式、記述式の問題については、全国と比べ高い傾向である。

(領域・問題別の平均正答率の状況~全国100とする)



### (2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答率の範囲に含まれる割合」の傾向



- ・25問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が14問、15問、16問に対し、16問、17問である。
- ・中位層の割合が全国と比べ、多い状況である。
- ・下位層に含まれる生徒の割合は全国と比べ、少ない状況である。

### (3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H27) 18問／25問
----------------	---------------

枠組み・領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
「活用」 物理的領域	技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができる	電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が揺れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する (記述式)	67.9%	56.8%
「知識」 生物的領域	背骨のある動物をセキツイ動物と表すことができる	背骨のある動物の名称を答える	73.6%	63.9%
「活用」 化学的領域	二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる	水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する (記述式)	61.6%	53.0%

②全国以下の平均正答率の設問から

枠組み・領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
「活用」 地学的領域	気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画することができる	上空を飛行中の飛行機内での菓子袋の膨らみを検証する実験について、空気を抜く操作に対応する飛行機の状況を推論する	57.2%	62.2%

「活用」 化学的領域	グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取ることができる	炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶ	69.2%	73.6%
---------------	-----------------------------------	--	-------	-------

理科において、留萌市の生徒への指導にあたっては

- 自然の事物・現象とモデルの対応を認識できるようにすることは、自然の事物・現象についての原理や法則を理解する上で大切である。モデルを使った実験を行う際、実際の装置や操作が自然の事物・現象の何と対応しているのかを明らかにする学習場面を設定することが考えられる。
- グラフを分析して解釈できるようにするには、単に測定値をグラフに表したり、グラフの縦軸・横軸から数値を読み取ったりするだけではなく、グラフの縦軸を従属変数として、横軸を独立変数として捉えたり、複数のグラフの特徴を比較したりするなどの学習場面を設定することが考えられる。

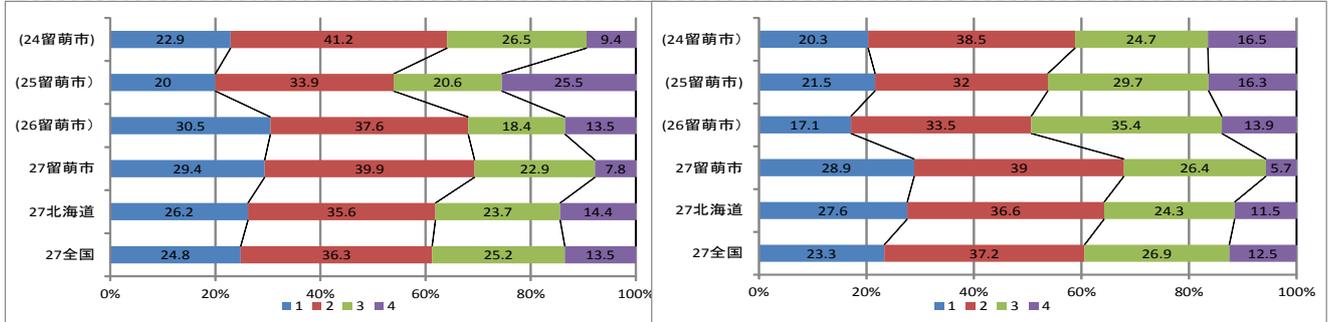
### Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。(5の(3)を除く)

#### 1 学習に対する関心・意欲・態度<児童生徒> 学習態度・学習規律<学校>

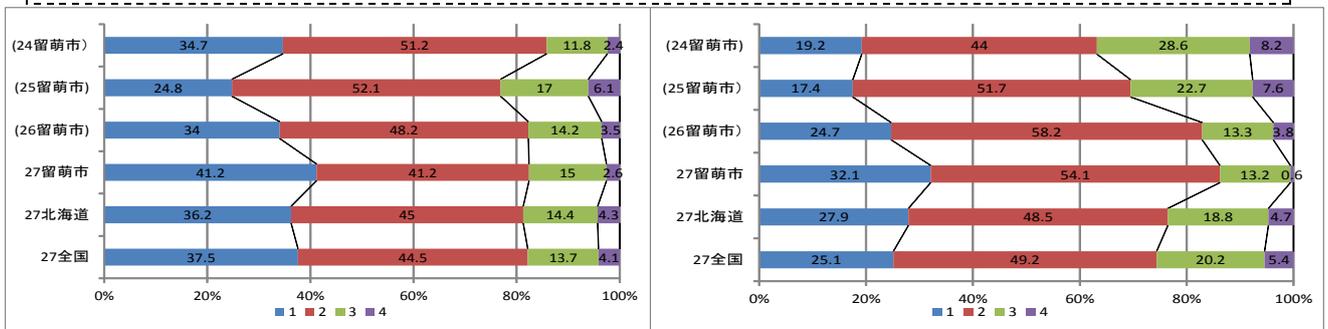
##### (1) 国語の勉強は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない



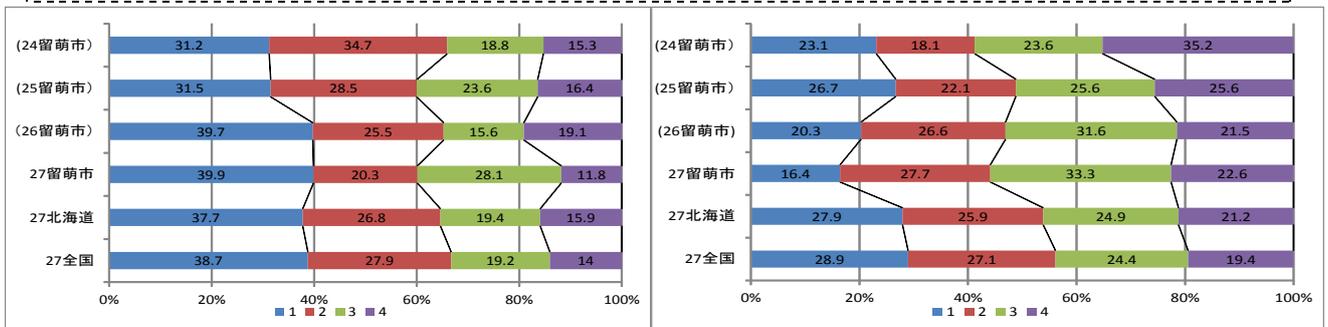
##### (2) 国語の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



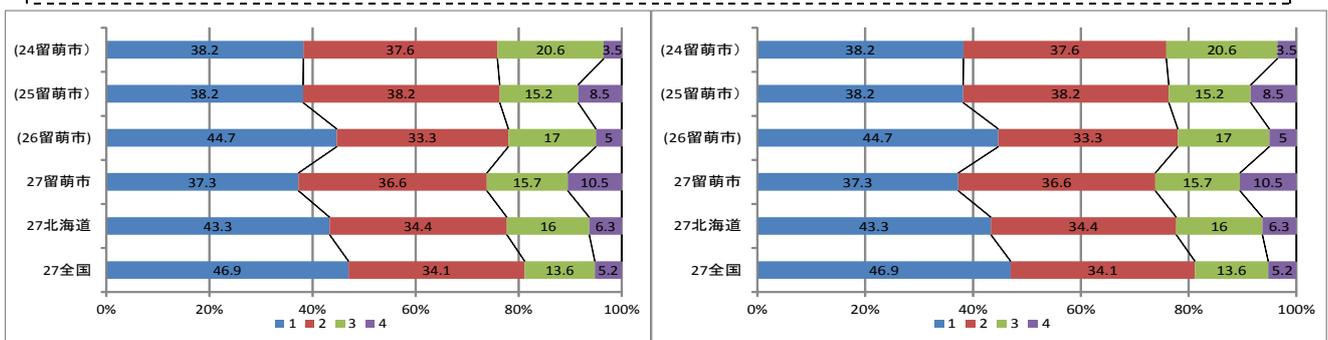
##### (3) 算数(数学)の勉強は好きですか

選択肢は(1)と同様



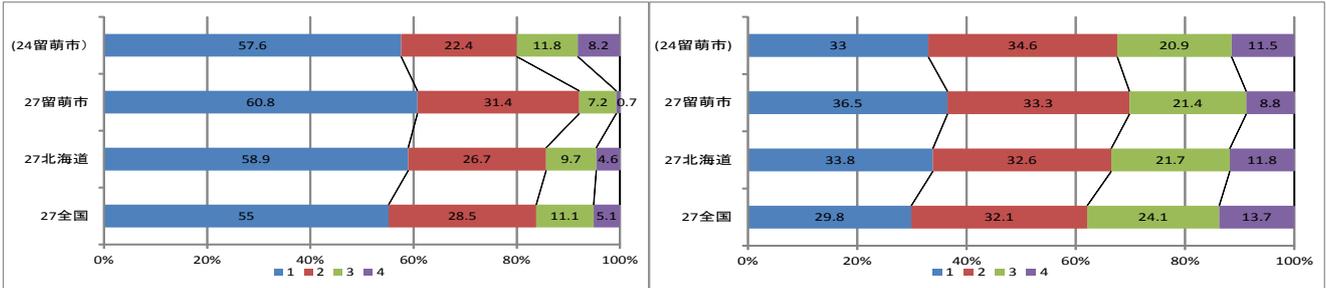
##### (4) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



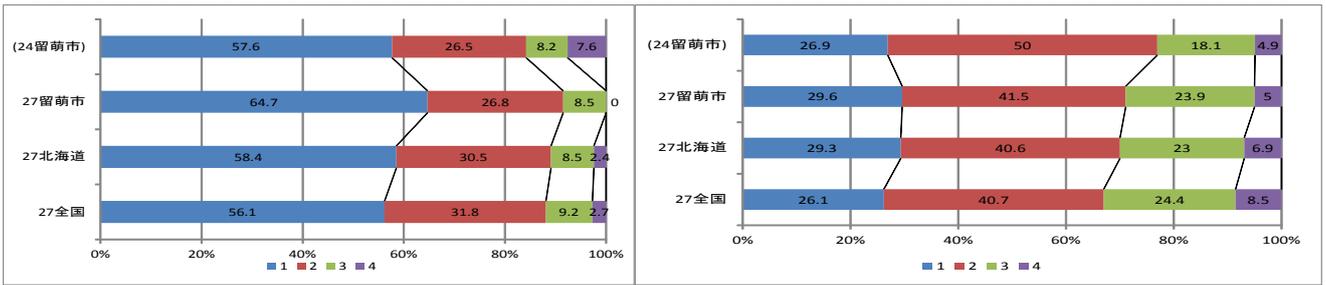
(5) 理科の勉強は好きですか

選択肢は(1)と同様



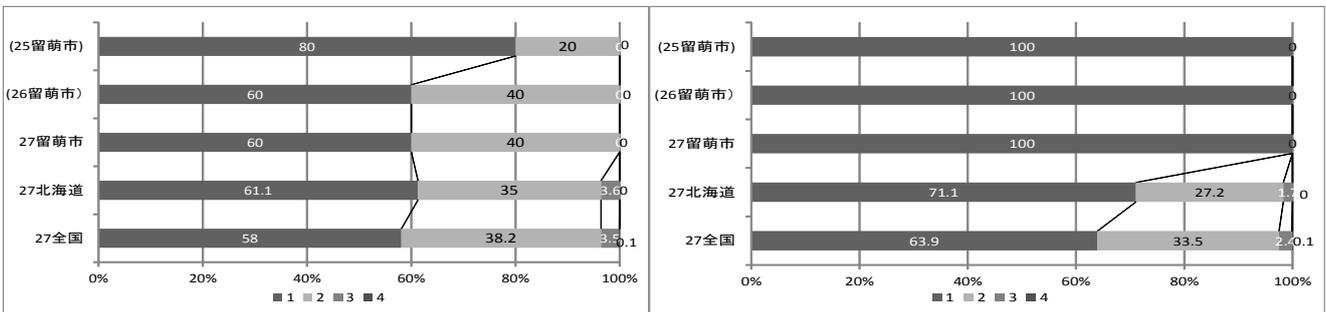
(6) 理科の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同じ



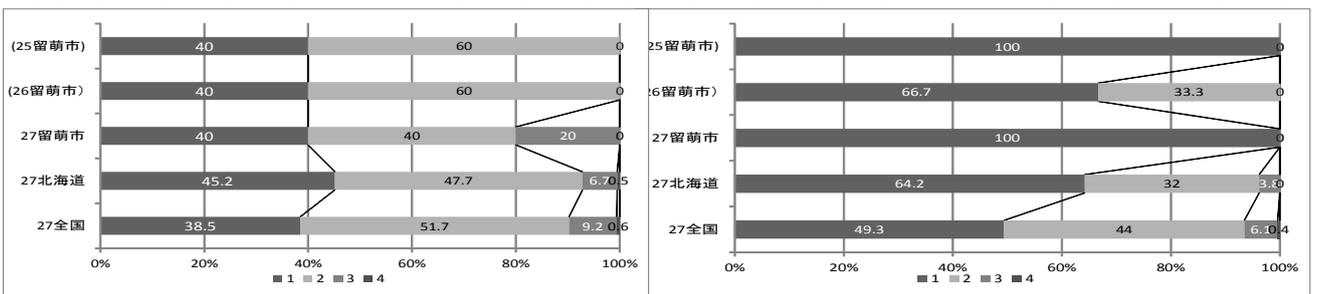
(7) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



(8) 調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない



【小学校】

- ・国語の勉強は好きであると肯定的に回答した児童の割合は全国より高い。
- ・算数の勉強が好きである、授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した児童の割合は26年度と比べやや低く、全国より低い。
- ・理科の勉強は好きであると肯定的に回答した児童の割合は全国より相当高い。
- ・学校は、児童は授業中の私語が少なく、落ち着いていると回答した割合が全国より低い。

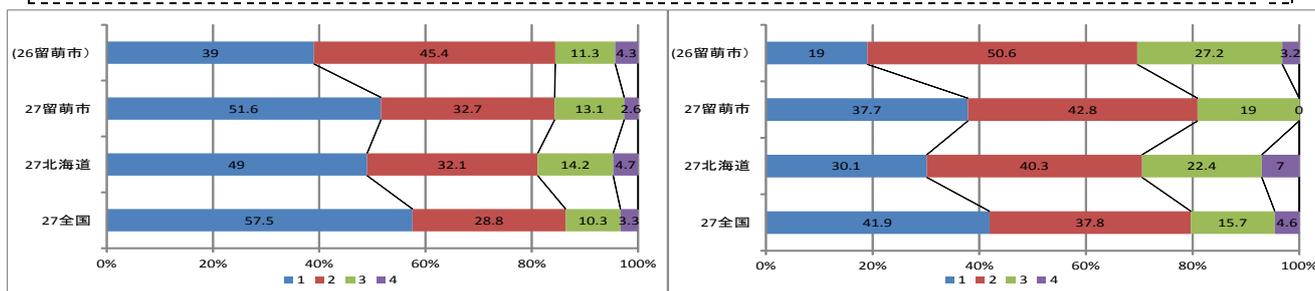
【中学校】

- ・国語の勉強が好きである，授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合は26年度と比べ高く，全国より高い。
- ・数学の勉強が好きである，授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合は26年度と比べ低く，全国より相当低い。
- ・理科の勉強が好きである，授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合は全国より低い。
- ・すべての学校が，生徒の学習規律の維持の徹底され，学習態度も落ち着いている。

2 学習状況(言語活動・指導状況) <児童生徒> 指導方法・言語活動<学校>

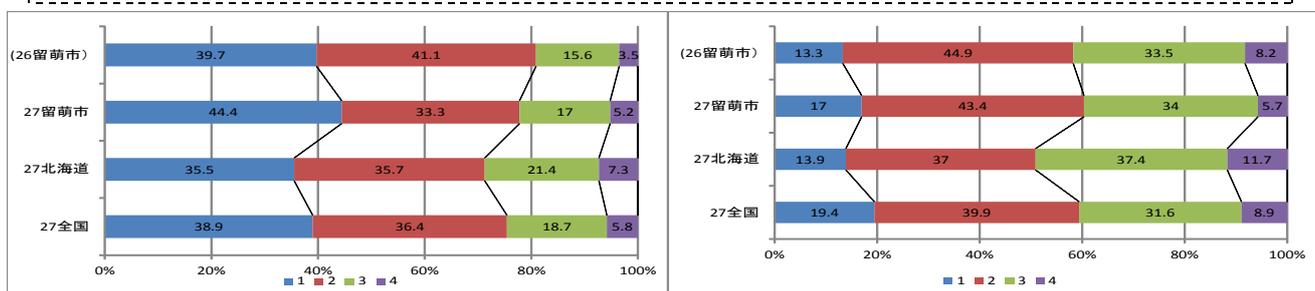
(1) 5年生までに(1, 2年生のとき)に受けた授業のはじめに，目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば，当てはまる 3 どちらかといえば，当てはまらない  
4 当てはまらない



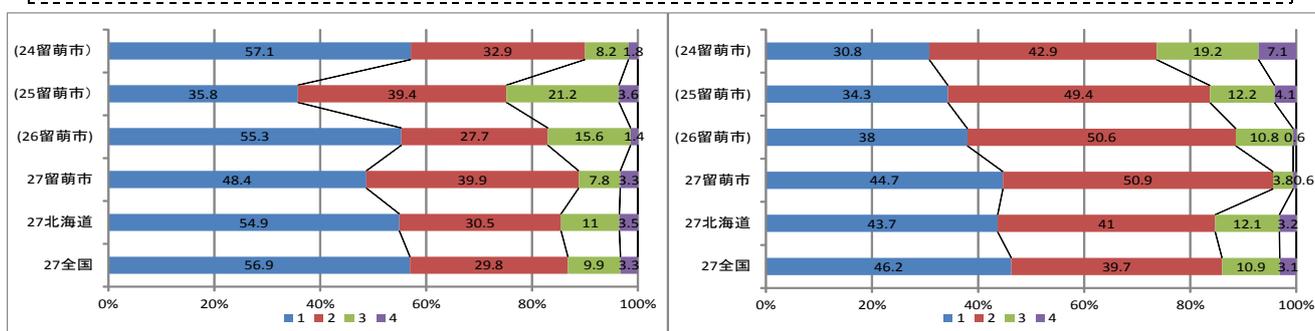
(2) 5年生までに(1, 2年生のとき)に受けた授業の最後に，学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



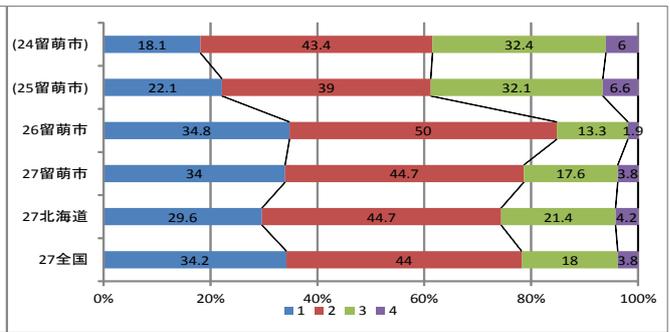
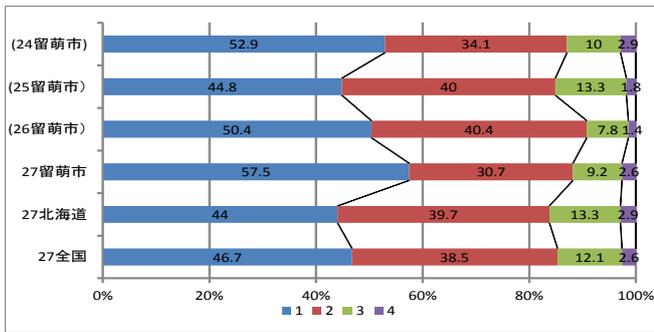
(3) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では，自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



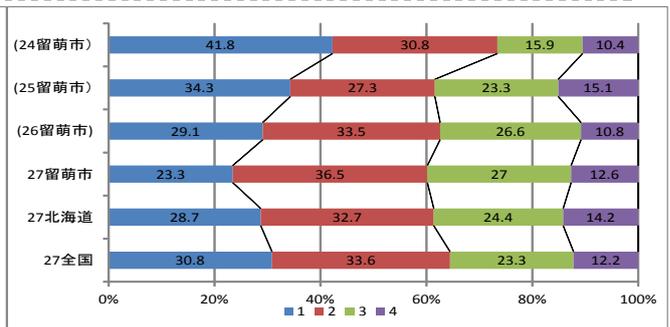
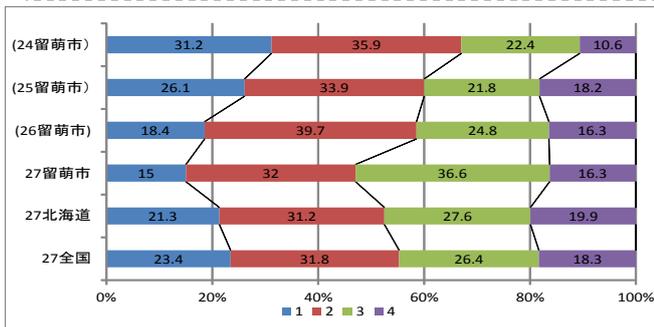
(4) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では，学級の友達との間(生徒の間)で話し合う活動をよく行っていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



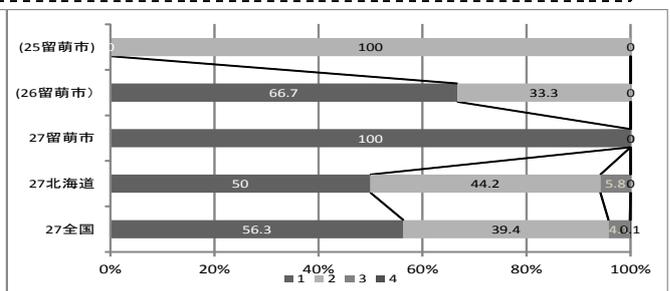
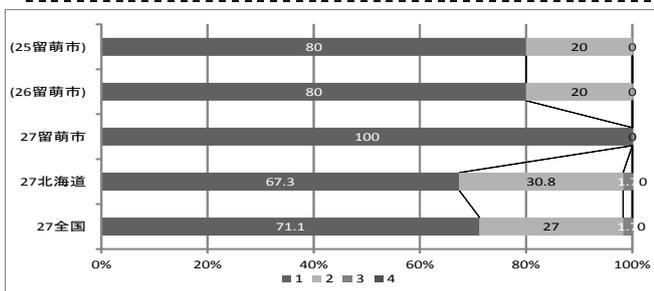
(5) 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない  
4 そう思わない



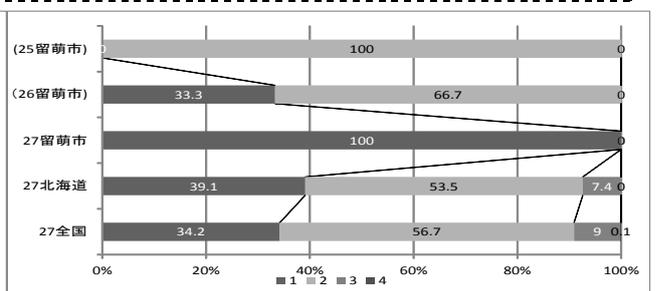
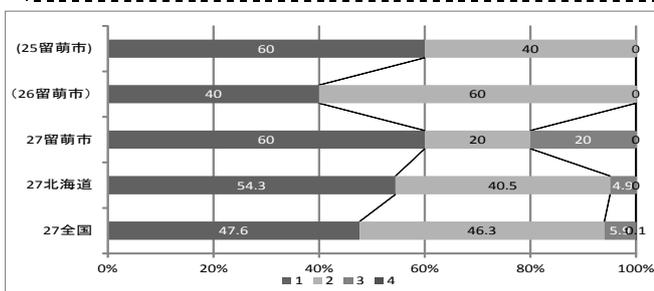
(6) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



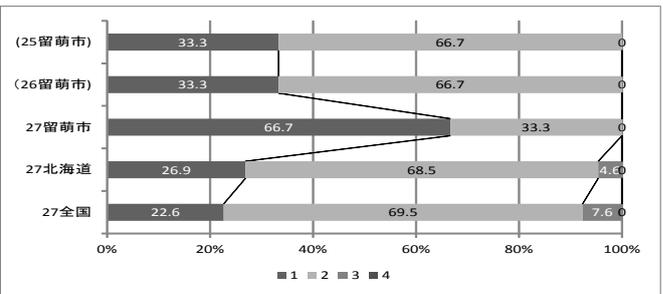
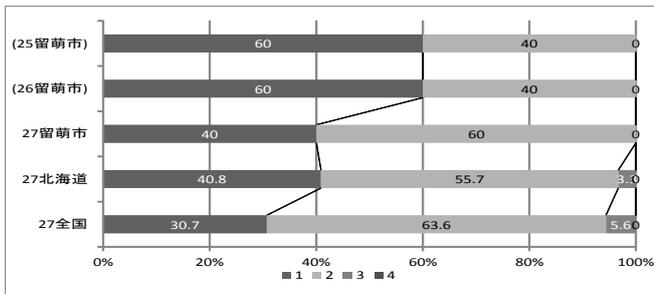
(7) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

選択肢は(6)に同様



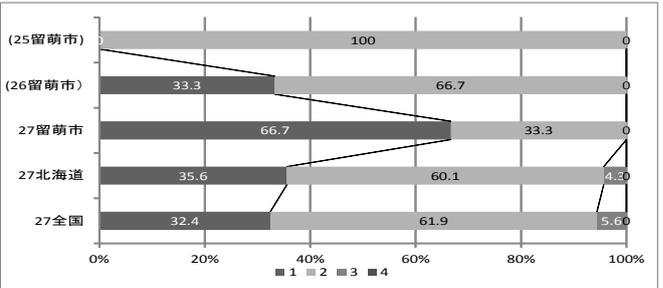
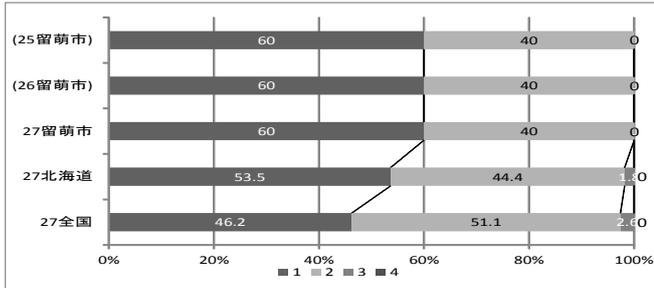
(8) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

選択肢は(6)に同様



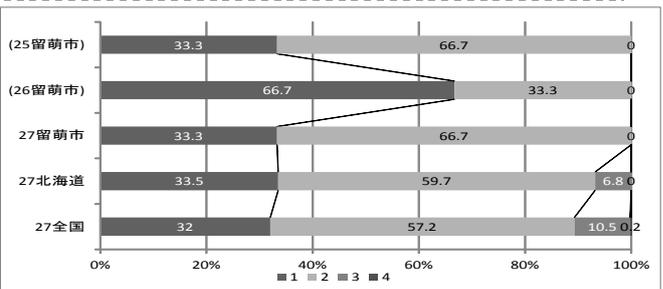
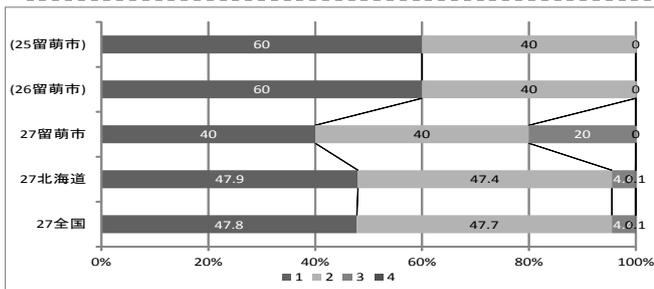
(9) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか

選択肢は（6）と同様



(10) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動や授業などで行いましたか

選択肢は（6）と同様



【小学校】

- ・自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと回答している児童の割合は、25年度以降、増加傾向にある。
- ・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと思うと回答している児童の割合は、24年度以降、減少傾向にあり、今年度は全国より相当低い。
- ・すべての学校では、授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り入れると回答しているのに対し、2割弱の児童は示されているとは思っていない。

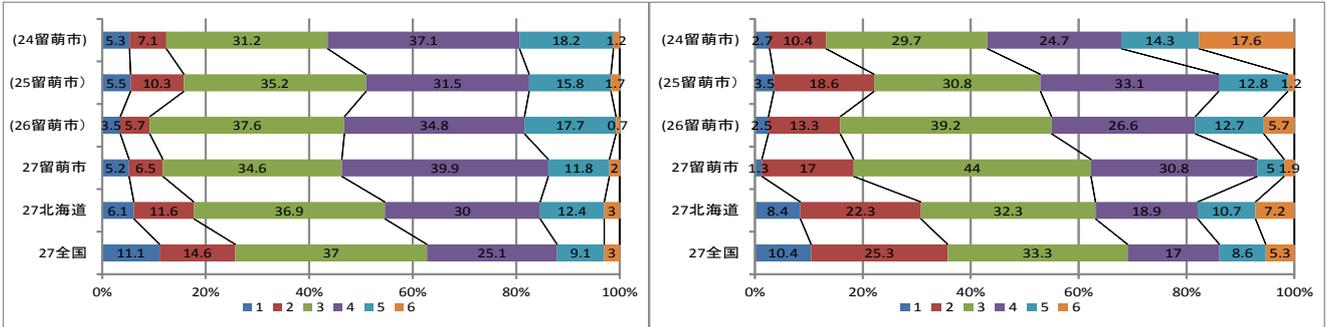
【中学校】

- ・授業のはじめに目標が示されていると思うと回答している生徒の割合は26年度と比べ相当高い。
- ・自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと回答している生徒の割合は、24年度以降、増加傾向にある。
- ・すべての学校では、授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り入れると回答しているのに対し、2割弱の生徒は示されているとは思っていない。
- ・すべての学校で、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れると回答しているのに対し、4割弱の生徒は振り返る活動を行っているとは思っていない。
- ・学校は、この3年間で発言や活動の時間を確保して授業を進めるようになってきている。

3 学習時間等<児童生徒> 家庭学習<学校>

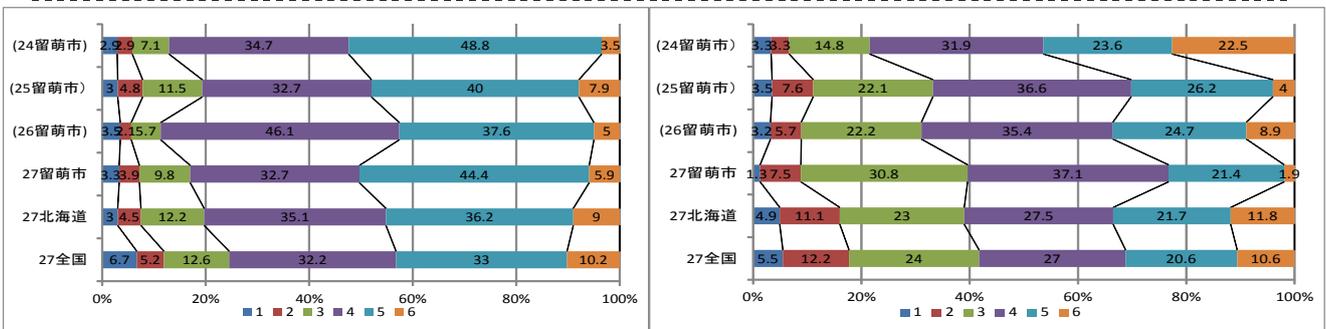
(1) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- 1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない  
4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない



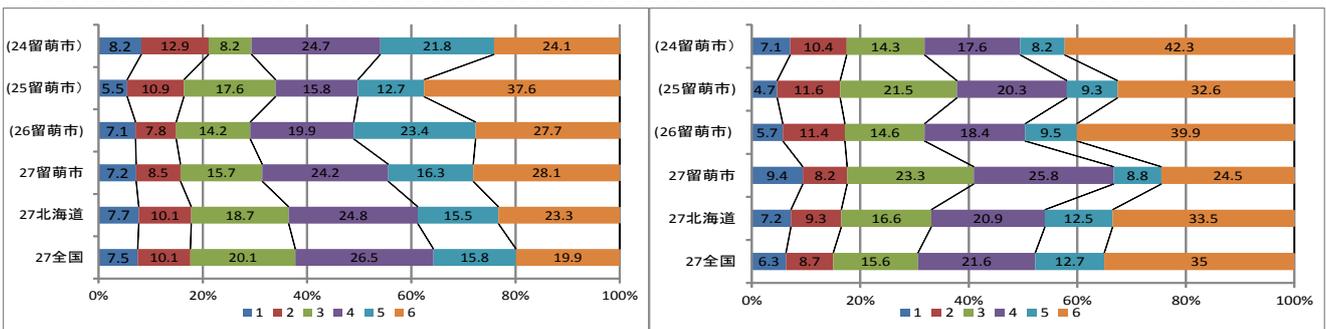
(2) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない  
4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くない



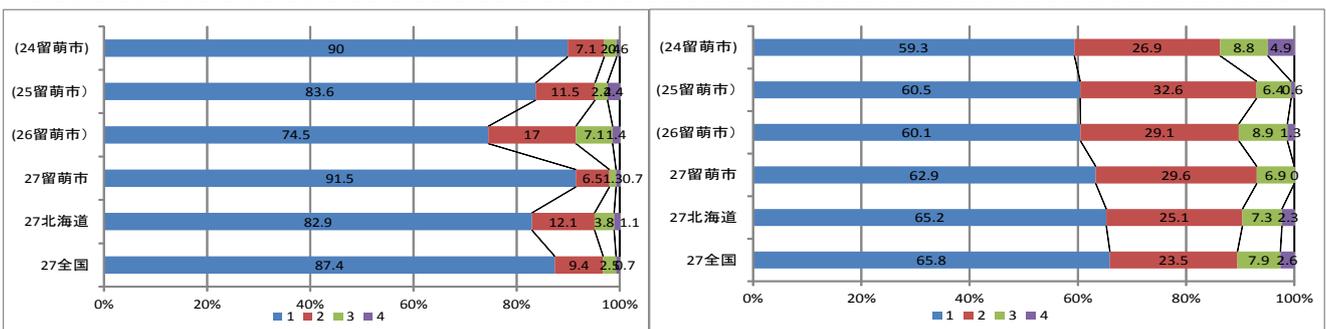
(3) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

- 1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない  
4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない



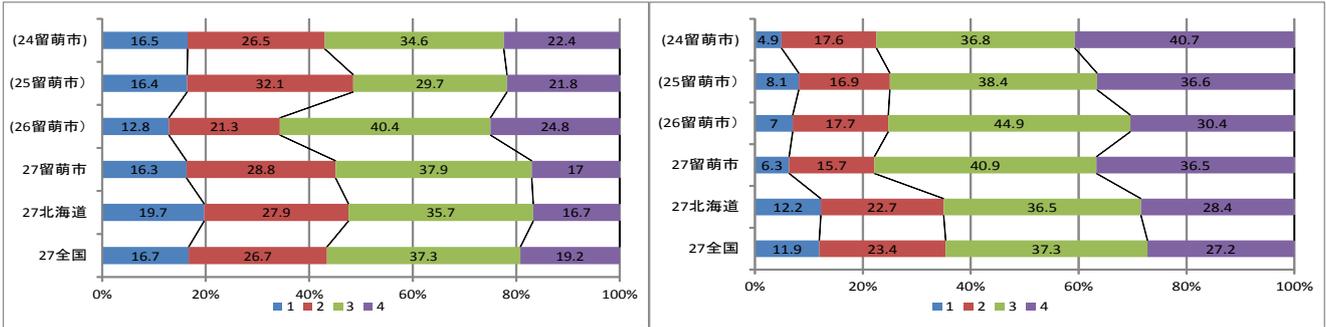
(4) 家で、学校の宿題をしていますか

- 1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



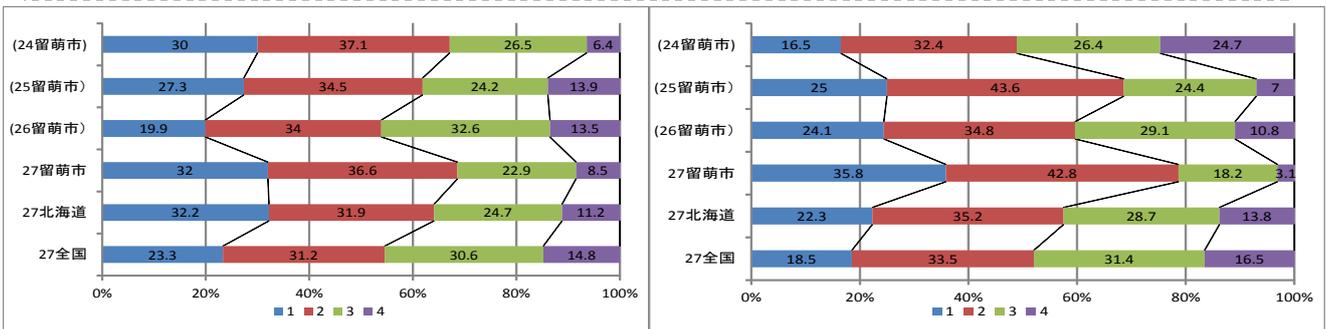
(5) 家で、学校の授業の予習をしていますか

選択肢は(4)と同様



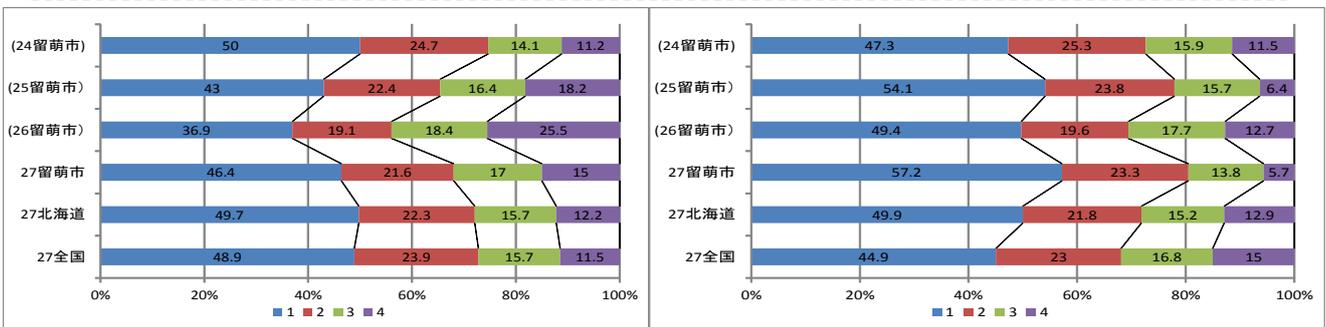
(6) 家で、学校の授業の復習をしていますか

選択肢は(4)と同様



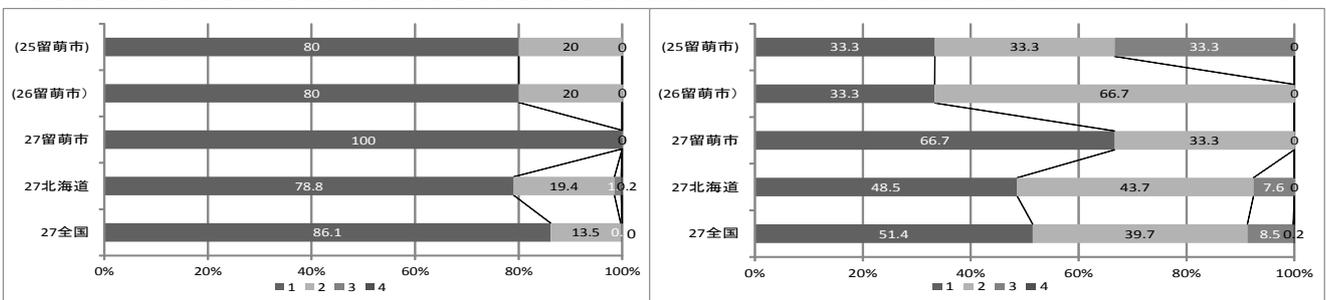
(7) 読書は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない



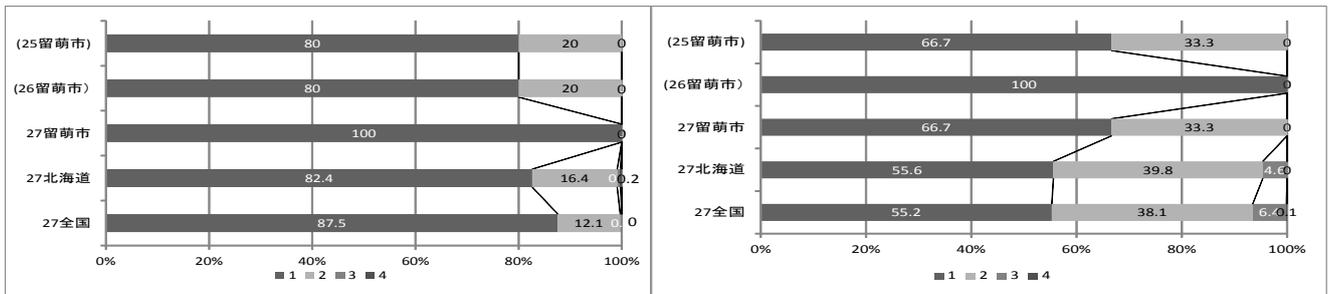
(8) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



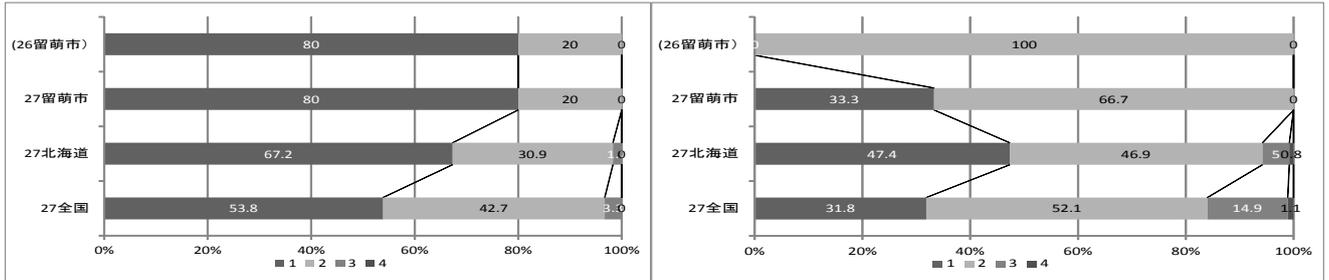
(9) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数(数学)の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか

選択肢は(8)と同様



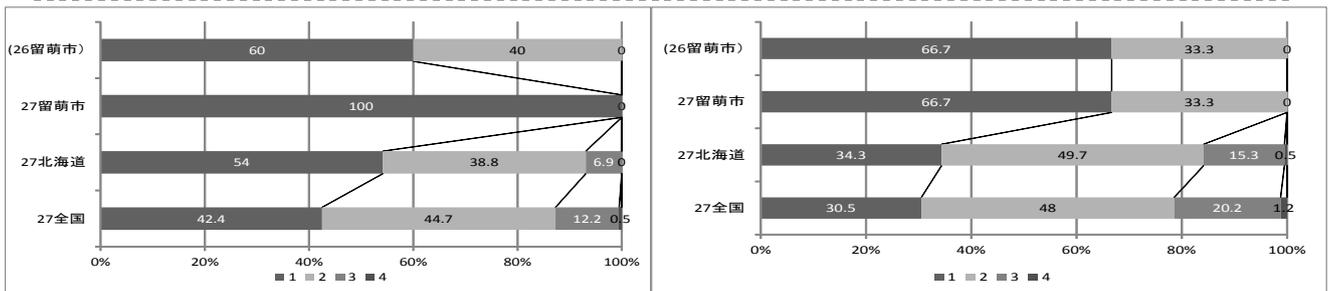
(10) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数・数学共通）

選択肢は（８）と同様



(11) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数・数学共通）

選択肢は（８）と同様



【小学校】

- ・ 普段（月～金曜日）や土曜日や日曜日に、1日当たり1時間以上勉強をすると回答している児童の割合は全国より相当低い。
- ・ 家で学校の授業の復習をしていると回答している児童の割合は全国より高い。
- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答している児童の割合は全国よりやや低い。
- ・ すべての学校が、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。

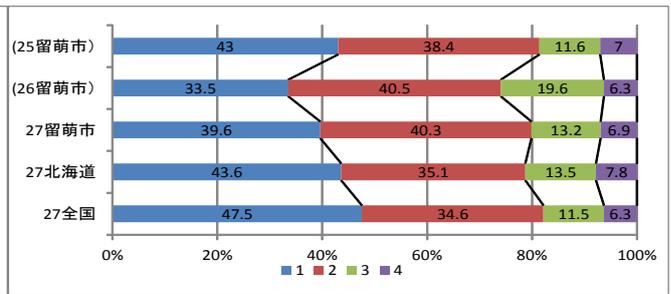
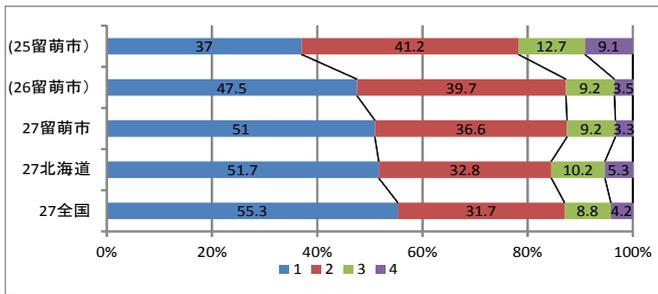
【中学校】

- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答している生徒の割合は増加傾向であるが、依然として全国より低い。
- ・ 土曜日や日曜日に、1日当たり1時間以上勉強をすると回答している生徒の割合は全国より高い。
- ・ 家で学校の授業の予習をしていると回答している生徒の割合は全国より相当低いが、逆に復習していると回答している生徒の割合は全国より相当高い。
- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答している生徒の割合は全国より相当高い。

4 学校生活等＜児童生徒＞

(1) 学校に行くのは楽しいと思いますか

- 1 そう思う    2 どちらかといえば、そう思う    3 どちらかといえば、そう思わない  
4 そう思わない

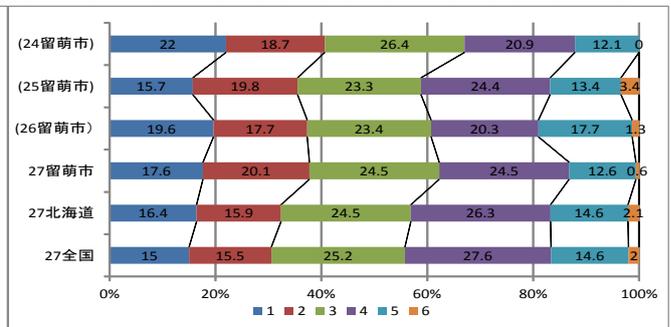
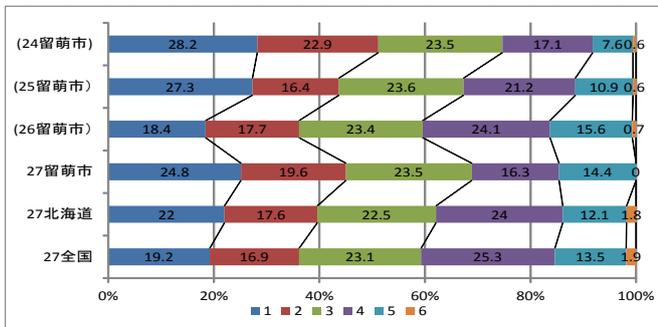


【小学校・中学校】  
 ・学校に行くのは楽しいと思うと肯定的に回答とした児童生徒の割合は全国とほぼ同様である。

5 基本的な生活習慣＜児童生徒＞

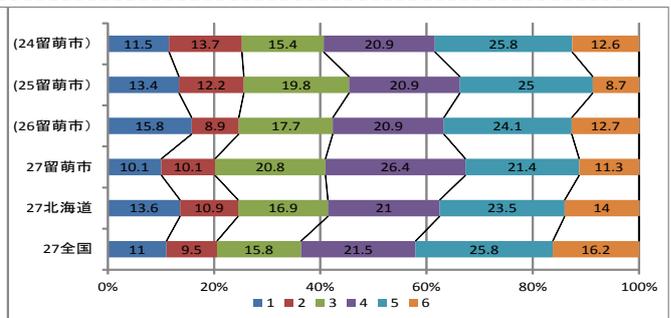
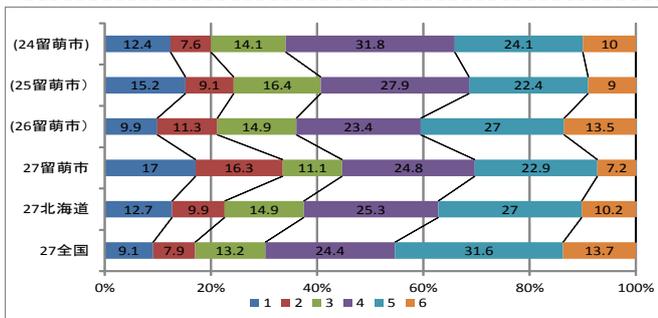
(1) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームをする時間は除く)

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない  
 4 1時間以上 5 1時間より少ない 6 全く見たり、聞いたりしない



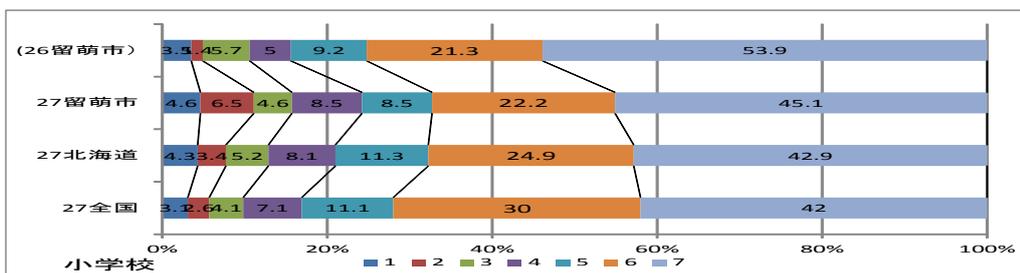
(2) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

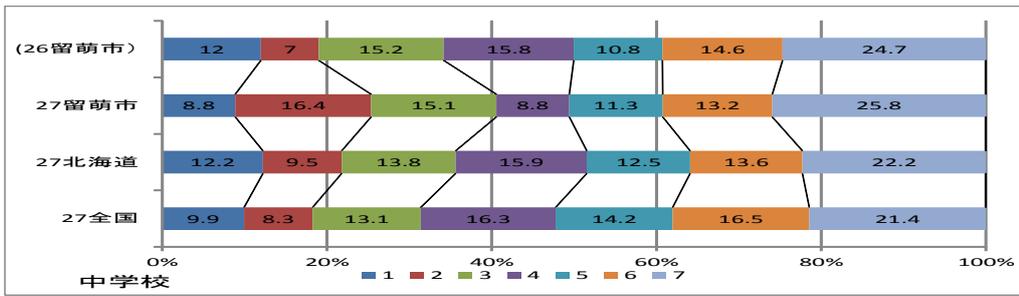
- 選択肢は(1)とほぼ同様、ただし、6のみ変更(6 全くしない)



(3) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない  
 4 1時間以上、2時間より少ない 5 30分以上、1時間より少ない  
 6 30分より少ない 7 携帯電話やスマートフォンを持っていない





【小学校】

- ・ 普段、1日当たり3時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしたり、また3時間以上、テレビゲーム等をする児童の割合はともに全国より相当高い。
- ・ 普段、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている児童の割合は全国より高い。

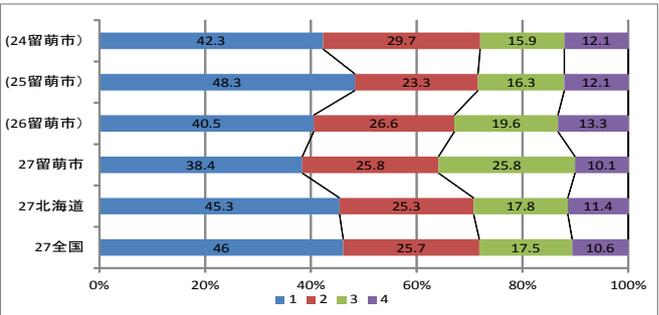
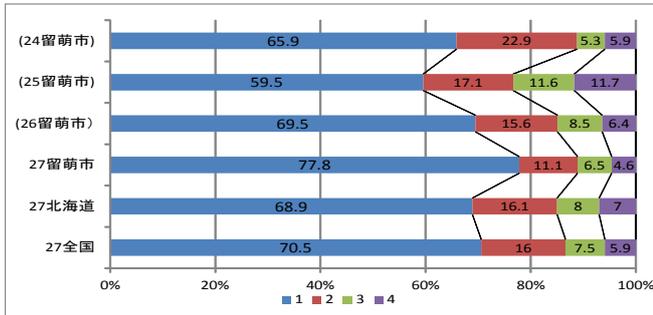
【中学校】

- ・ 普段、1日当たり3時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている生徒の割合は全国より相当高い。
- ・ 普段、1日当たり3時間以上、テレビゲームをする生徒の割合は減少傾向であり、全国とほぼ同様の割合である。
- ・ 普段、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている生徒の割合は全国より相当高い。

6 将来に関する意識<児童生徒>

(1) 将来の夢や目標を持っていますか

- 1 当てはまる    2 どちらかといえば、当てはまる    3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない



【小学校】

- ・ 将来の夢や目標を持っていると回答した児童の割合は増加傾向にある。

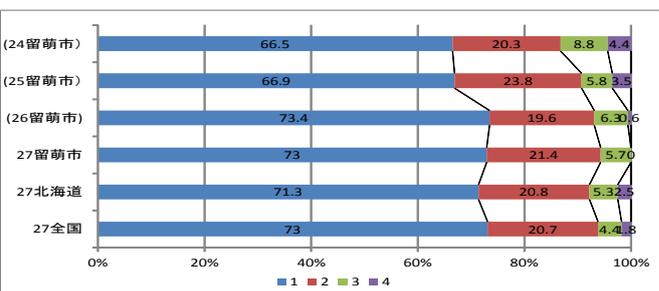
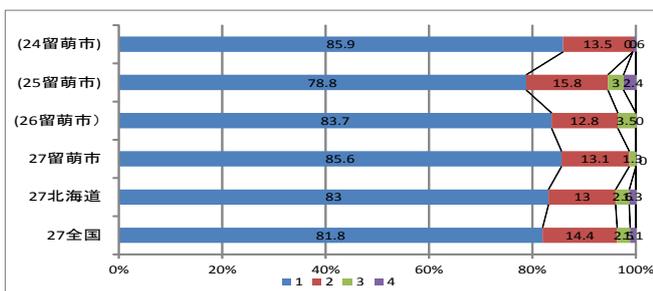
【中学校】

- ・ 将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合は減少傾向にあり、全国よりも低い。

7 規範意識<児童生徒>

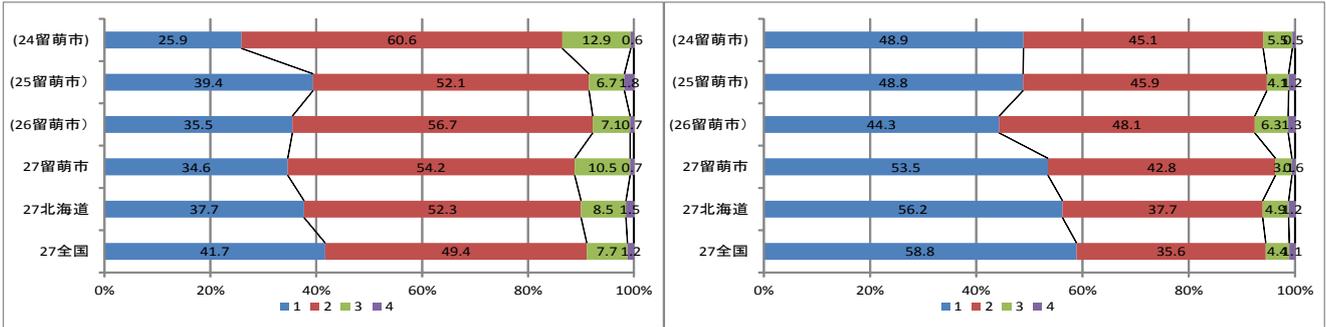
(1) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

- 選択肢は6の(1)と同様



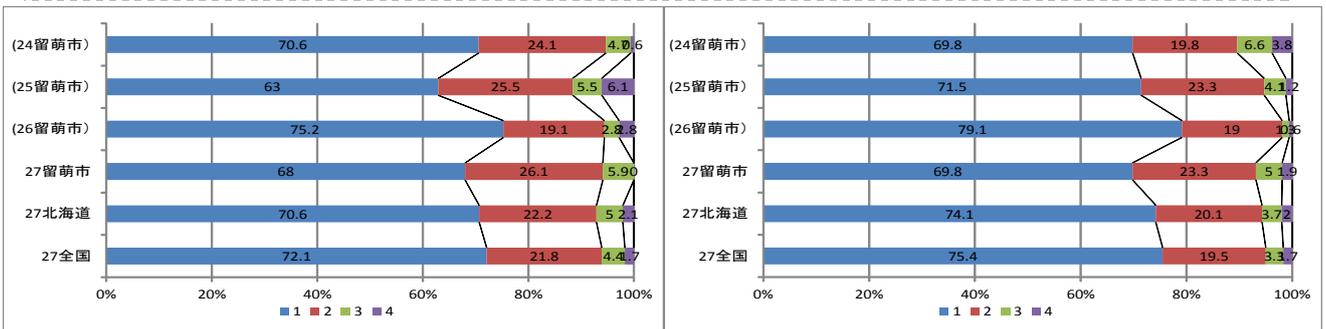
(2) 学校のきまり，規則を守っていますか

選択肢は6の(1)と同様



(3) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

選択肢は6の(1)と同様



【小学校】

・いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した児童の割合は増加傾向にある。

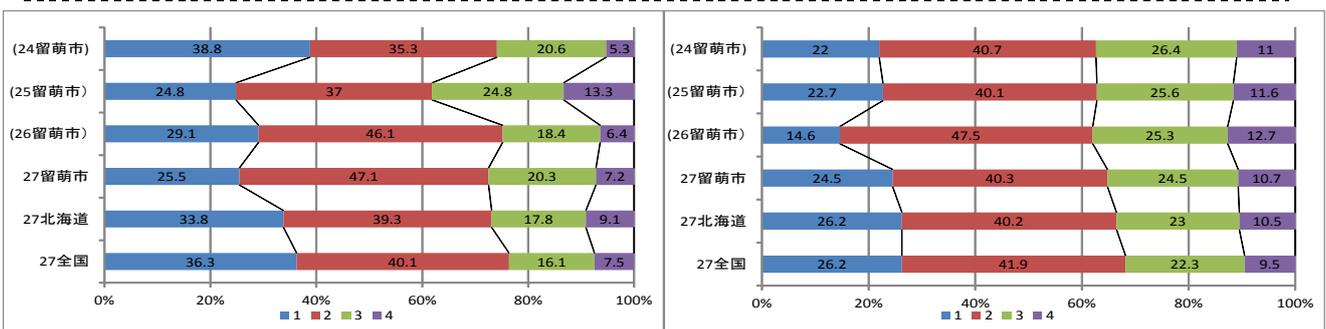
【中学校】

・いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した生徒の割合は増加傾向にある。

8 自尊意識<児童生徒>

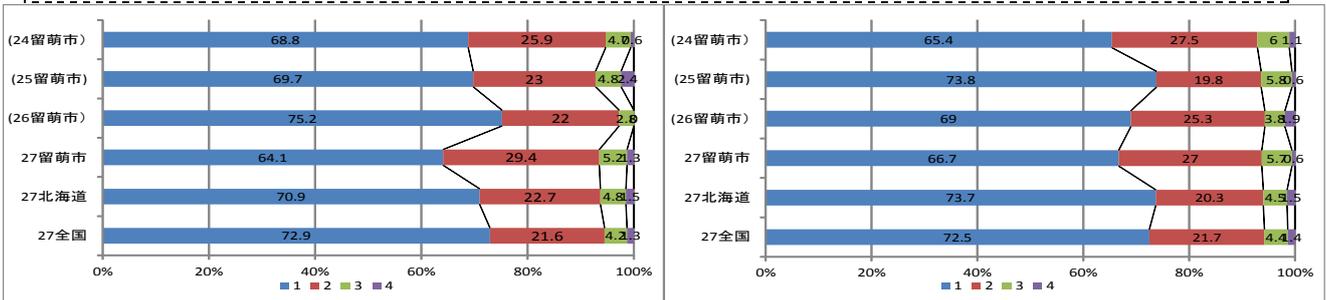
(1) 自分には，よいところがあると思いますか。

選択肢は6の(1)と同様



(2) ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか

選択肢は6の(1)と同様



【小学校】

- ・自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや低い。
- ・ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあると肯定的に回答した児童の割合は、26年度と比べやや低い。

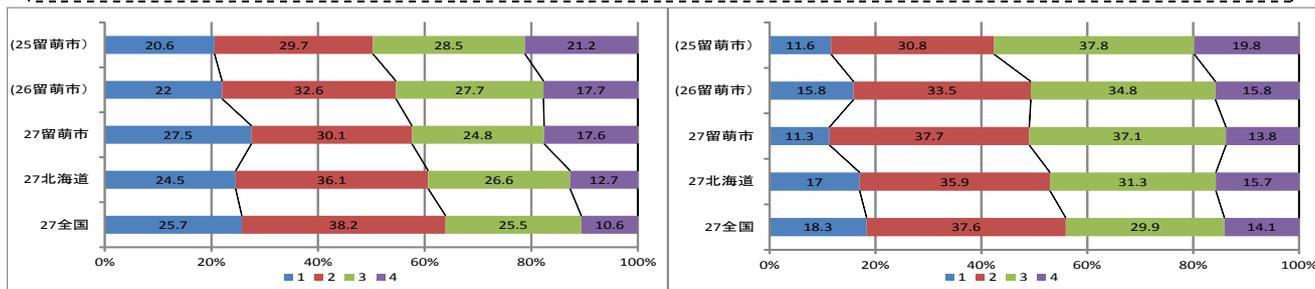
【中学校】

- ・自分によりよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合は、増加傾向にある。

9 社会に関する興味・関心<児童生徒>

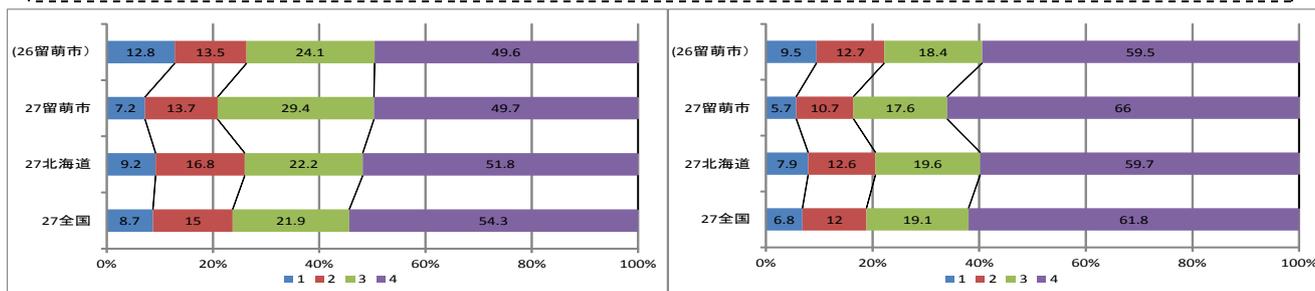
(1) 地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか

選択枠は6の(1)と同様



(2) 新聞を読んでいますか

- 1 ほぼ毎日読んでいる    2 週に1～3回程度読んでいる    3 月に1～3回程度読んでいる  
 4 ほとんど、または、全く読まない



【小学校】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心があると回答した児童の割合は、増加傾向にある。
- ・ほとんどあるいは全く新聞を読まないと回答している児童の割合は、全国よりやや低い。

【中学校】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心があると回答した生徒の割合は、全国より低い。
- ・ほとんどあるいは全く新聞を読まないと回答している生徒の割合は、全国よりやや高く、また26年度より高い。また、小学校児童の割合よりも高い。

IV おわりに

各学校は、本調査の結果を十分に分析することにより、現状と課題を明確にし、教育の質を高めるための改善を確実に実行していきます。

今年度、児童生徒に対する質問紙調査からも、重点的な学力向上へ向けた取組のうち、特に授業改善が進んでいることが分かります。一方で、児童生徒は総じてメディアとの接触時間が長い傾向にあり、基本的な生活習慣や学習習慣の形成については、依然として改善の余地があることが分かります。

子どもたちの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。子どもたちの「生きる力」を育むため、今後とも市民の皆様の学校教育・家庭教育へのご理解とご支援・ご協力を引き続き、お願い申し上げます。